



市民一人ひとりが輝く「みんなのかたの」は
美しく・やさしく・たのしい 環境のまち

交野市環境基本計画



平成30(2018)年3月改訂版

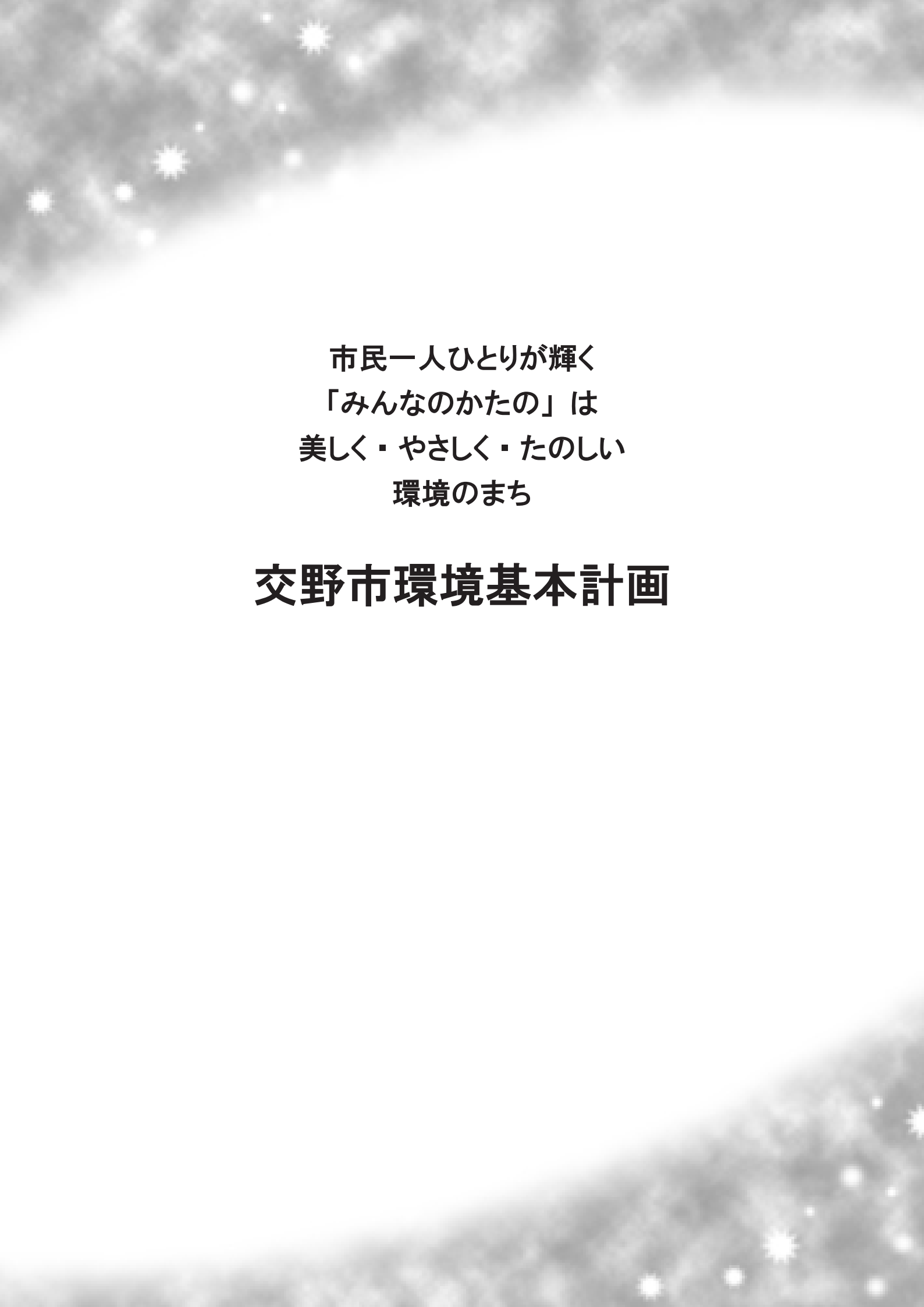
交野市



星のブランコ

星のブランコは府民の森「ほしだ園地」の空中に浮かぶ、全長280メートル、最大地上高50メートルと全国でも最大級の木床板人道吊り橋です。芽吹きから新緑、紅（黄）葉から落葉へと雑木林の四季の移ろいを、空中散歩の気分で楽しむことができます。

（交野まちなみ写真応募作品から）



市民一人ひとりが輝く
「みんなのかたの」は
美しく・やさしく・たのしい
環境のまち

交野市環境基本計画

目次	3
各章の概要	4
見直しについて	5
序章 交野市環境基本計画とは	6
第1章 交野市環境基本計画のビジョン	10
1. 総合ビジョン	11
2. 分野別ビジョン	12
3. 地域や社会の環境問題・課題	14
4. 交野市環境基本計画の指標と目標	18
第2章 ビジョン実現、課題達成のためのプロジェクト	21
1. プロジェクト全体の概要	22
2. 自然環境分野	24
3. エコ生活分野	31
4. エネルギー分野	40
5. まちづくり分野	48
6. “かたのサイズ”をめざす像	57
7. プロジェクト以外のおもな環境施策（行政）	59
第3章 推進と評価の仕組み	61
1. 計画推進の考え方	62
2. 計画の推進体制	62
3. 進行管理と評価について	63
資料編	64
1. 交野市の環境の現況	65
2. 交野市環境審議会委員名簿及びワークショップ参加者名簿	71
3. 用語集	73

序章

交野市環境基本計画とは

この計画の基本的事項、基本的な考えなどを紹介しています。

第1章

交野市環境基本計画のビジョン

目指すべき環境の将来ビジョン（総合ビジョンと分野別ビジョン）

私たちの課題、地域や社会の環境問題、目標と指標を紹介しています。

第2章

ビジョン実現、課題達成のためのプロジェクト

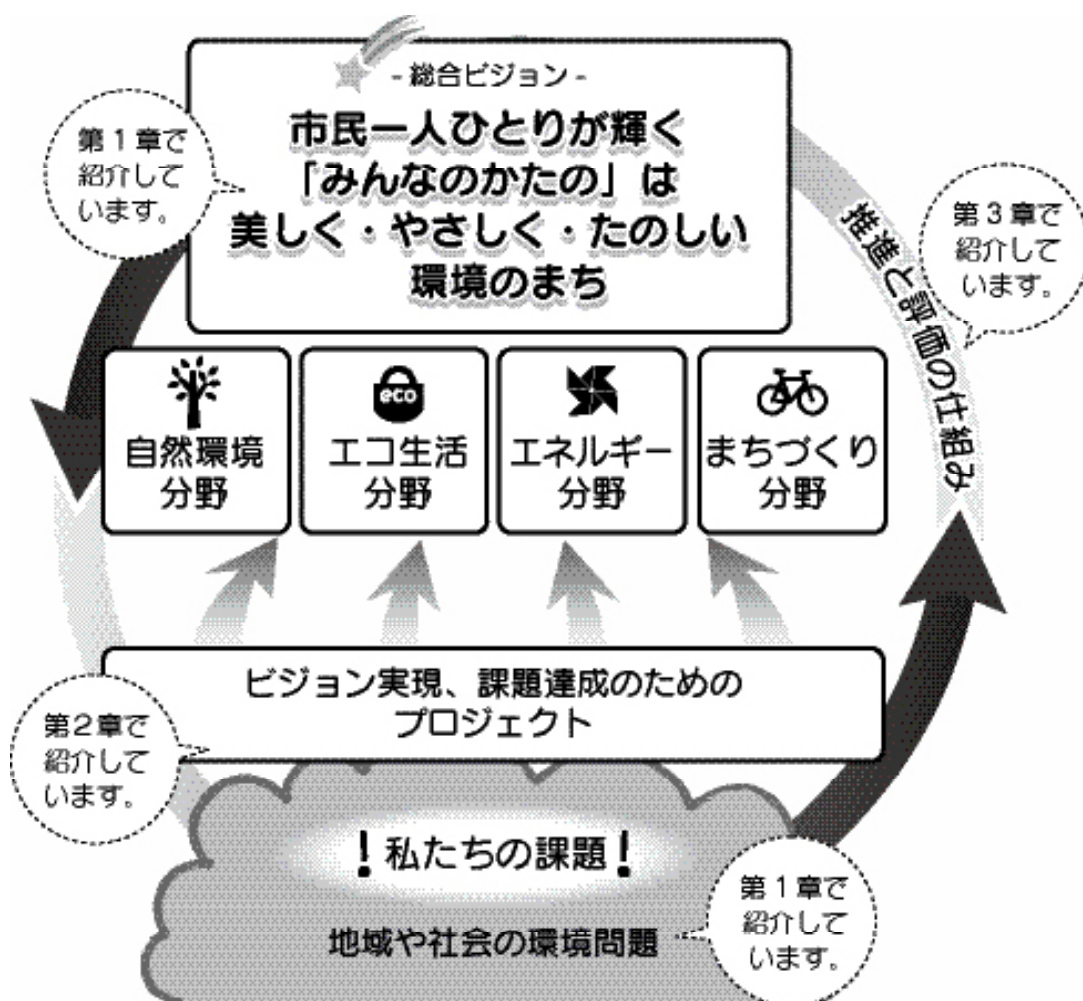
ビジョンを実現するための環境プロジェクトの内容を紹介しています。

交野市の市民・事業者・行政の三者協働で取り組む具体的環境行動です。

第3章

推進と評価の仕組み

プロジェクトの推進および評価の仕組みについて紹介しています。



平成27(2015)年12月にフランスのパリで開催された国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)において、「パリ協定」が採択され、その後、平成28年(2016)年11月に発効されたことで、法的な効力を持つようになりました。

これを受けて、我が国の地球温暖化対策を科学的見地に基づき、国際的協調の下で、率先的に取り組むことが必要であることから、中期目標(平成42(2030)年度削減目標)の達成に向けた取り組みとして、温室効果ガスの削減目標を平成42(2030)年度において、平成25(2013)年度比26.0%減(平成17(2005)年度比25.4%減)を掲げています。

また、平成27(2015)年9月にアメリカのニューヨークで、国連持続可能な開発サミットが開催され、持続可能な開発のための2030アジェンダが採択されました。ここでの、持続可能な開発目標(SDGs)内には、目標7「すべての人に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する」、目標13「気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る」が掲げられるなど、様々な分野において環境負荷低減の必要性が提唱されています。

本市におきましては、平成24年(2012)3月に交野市環境基本計画を策定し、地域と地球の良好な環境を保持し、持続可能な社会をつくるために本市の将来像をイメージしたビジョンと、その実現にむけての課題、そしてその課題を達成するために、市民、事業者、行政との協働(パートナーシップ)により取り組むべき具体的な行動として、「自然環境」「エコ生活」「エネルギー」「まちづくり」の4事業に分類し、20のプロジェクトを掲げ、緑地面積の拡充、二酸化炭素排出量の削減、ごみ処理量の削減、河川水質の向上を目標としています。この計画の推進より、5年間の経過したことから計画の進捗状況の確認と評価を行うことで、平成33年度までの事業をどのように行うべきかを見極めるべく、中間見直しを行いました。

計画の見直しにあたり、交野市環境審議会の委員の皆様には、専門的分野を含めご検討いただきました。また、ワークショップでは、地域に即した検討を重ねるために、公募市民の方々と、協働で計画の推進に取り組んでいる交野市環境基本計画推進会議(交野みどりネット)のみなさんにご協力いただきました。

最後になりましたが、環境基本計画の見直しにあたり、ご尽力いただきました交野市環境審議会の委員のみなさん、ワークショップにご参加いただきました市民のみなさんより貴重なご意見・ご提案をいただきました皆様方に心よりお礼申し上げます。

—— 序 章 ——

交野市環境基本計画とは

1. 背景と目的

近年の環境問題は、地球温暖化、生物多様性といった地球規模の問題から身近な生活環境まで、多種・多様な分野に及んでいます。これらの原因は、20世紀後半の高度経済成長期における工場・事業所からの排気ガスや排水、騒音や振動といった、いわゆる「産業型の要因」によるものだけではなく、自動車の利用、生活排水、大量消費と大量廃棄といった私たちの生活様式に伴う「都市生活型の要因」によるものも大きく関わっています。

交野市は、大阪府内にあって市域の約半分が山であり、その裾野に田畑が広がるという、良好な自然環境や里地の風景が残っています。しかし、近年、田畑の減少・竹林による里山の侵食・ごみの不法投棄・自動車交通量の増加など、他の地域と同様の環境問題に直面しています。これらの環境問題を解決するため、工場・事業所への規制だけではなく、私たちの生活様式を見直していく必要があります。

「交野市環境基本計画」は、地域と地球の良好な環境を保持し、持続可能な社会をつくるための計画です。この計画には、交野市の将来像をイメージしたビジョンと、その実現にむけての課題、そしてその課題を達成するために、市民・事業者・行政がパートナーシップにより取り組むべき具体的な行動を規定しています。

2. 理念

ここで言う理念とは、この環境基本計画の実行にあたって、根幹となる価値観や大切にしたい考え方を示すものです。

本市では、現在運用している「交野市環境マネジメントシステム」の中で、環境に関する取り組みの理念が、次のように定められていますので、これをもって本計画の理念とします。

『環境問題は複雑・多様化し、地球規模での広がりをみせています。環境との共生が叫ばれているいま、身近な環境に配慮した行動が進められつつあります。』

環境問題への対応は、市民・事業者・行政が一体となって日常的に取り組むことが大切であり、総合的に推進することにより環境と共生するまちの形成をめざすことが必要です。』

3. 役割

1. 実現したい環境将来像(ビジョン)を示します。
2. ビジョンを実現するため、市民・事業者・行政によって取り組むプロジェクトを示し、充実した市民参画とパートナーシップによる環境政策の方向性を示します。
3. 本基本計画を総合的かつ着実に推進するための進行管理の方策を示します。

4. 位置づけ

国	環境基本法	平成 5(1993)年	個別課題ごとの環境関連法、リサイクル法などの整備 都道府県、市区町村でも環境基本条例や環境基本計画の制定が進む
	環境基本計画	第1次 平成 6(1994)年	循環、共生、参加、国際的取組
		第2次 平成12(2000)年	
		第3次 平成18(2006)年	環境から拓く新たなゆたかさへの道 環境・経済・社会の統合的向上
府	大阪府 環境基本条例	平成 6(1994)年	
	大阪府環境 総合計画	第1次 平成 8(1996)年	
		第2次 平成14(2002)年	
		第3次 平成22(2010)年	環境への負担が少なく、ゆとりと潤いがある「持続可能都市・大阪」
交野市	第4次交野市総合計画 「みんなの“かたの”基本構想」	平成 23(2011)年	市民憲章「和」(自然と、文化と、人との精神を受け止めた理念……【あじわい・なりわい・にぎわい・“みん活”でわいわいと“かたのサイズ”なまち暮らし】

交野市環境基本計画

環境面から考えた基本構想の具現化のための計画

5. 期間

計画の期間は、平成 24 (2012) 年度から平成 33 (2021) 年度までの 10 年間とします。計画の目的に照らし、必要な事業をできるところから取り組んでいきますが、社会情勢や実施状況等を勘案し、必要に応じて見直しや更新をおこないます。

6. 対象範囲

地域

本市域全体を対象範囲とします。視点は、環境影響の範囲とし、広く地球環境までを視野に入れます。また、広域的な連携が必要な場合は、近隣自治体・府県レベルでの協力で対処します。

推進主体の範囲

市民：市内に在住、在勤、在学する人たち(団体も含む)。
事業者：市内で事業活動をおこなう企業等。
行政：交野市。実施状況に応じては、国・大阪府と調整する。

7. 策定プロセス及び見直し作業



平成22(2010)年度

9月	「かたの・環境を考える委員会」 委員公募を始める
第1回10月4日	委嘱式とオリエンテーション 以降、月2回のペースで委員会開催
第2回から第11回	テーマ別学習とフィールドワーク
第12回3月17日	テーマ別学習とフィールドワークの おさらいと振り返り



平成23(2011)年度

第13回 4月12日	分野別グループ分け 「自然環境保全」「エコ生活」「エネルギー」「まちづくり」
第14回から第17回	テーマ別「地域の問題」の整理・抽出・課題設定
第18回から第27回	課題達成のためのプロジェクト立案・ビジョン検討
第28回 11月14日	中間発表会リハーサル
中間発表会	11月26日(市役所別館) および 12月4日(ゆうゆうセンター)
第29回から第31回	プロジェクト精査と、推進組織の検討
第32回1月26日	環境基本計画推進組織の先行事例視察(駒市、ECO-net生駒)
第33回から第35回	プロジェクトの精査・計画推進の準備・計画書の作成
第36回3月19日	計画書案の完成 まとめ(推進組織準備会の設立に向けて)



平成29(2017)年度

9月5日	第1回交野市環境審議会 見直し手法と範囲を決定 ・ 見直し手法は市民参加によるワークショップ方式を取入れる ・ 見直し範囲は指標と目標部分及び推進プロジェクトとする
9月13日～10月6日	見直し作業の参考とする為の庁内意見の収集
9月～11月(6回)	公募市民、交野市環境基本計画推進会議メンバーによるワークショップ
11月30日	第2回交野市環境審議会 計画見直し案を決定
1月～2月	パブリックコメント実施
3月	第3回交野市環境審議会 計画見直し案の完成 答申

—— 第 1 章 ——

交野市環境基本計画のビジョン

この章で紹介する「交野市環境基本計画総合ビジョン」や「分野別ビジョン」は、平成22(2010)年10月に発足した「かたの・環境を考える委員会」で議論した、10年後の交野市の、環境面からみたビジョン(将来像)です。こんな交野にしたいという想いを込めています。

あわせてこの章では、ビジョンやプロジェクト(第2章で紹介)を考える背景となった「地域の問題」と、それらの問題に対する「私たちの課題」も紹介しています。



1. 総合ビジョン

市民一人ひとりが輝く
「みんなのかたの」は
美しく・やさしく・たのしい
環境のまち

京へ五里、大阪へ五里、奈良へ五里
適度に都会・ほどよく田舎の「とかいなか」
それが私たちのまち“かたの”です

“かたの”を見つめてみると、こんな未来が見えてきました

古より和歌にも詠われた美しい風景や歴史
自然や人に配慮するやさしい心
みんなが楽しく笑顔で語り合う
人情味あふれるまち“かたの”

七夕伝説に彩られ
空にも地にも天の川が流れる「星のまち」
桜の春、天野川の水面が光る夏、紅葉の秋
交野山のふところにいだかれる里山の冬

移りゆく四季の中で ゆったり ほっこり 暮らしている

おいしい水は元気の素・交野の宝

地元の米や野菜を日々いただける感謝の気持ちを大切にして
エコライフを楽しんでいる

大切なものがあるべき姿のまま
未来へつながるまち “かたの”

2. 分野別ビジョン

自然環境 分野



ビジョン

『人々が憩う豊かな
自然がある』

里山は、
生物多様性が保全されていて、
ハイキング・森林浴などの
山遊びが楽しめる
憩いの場となっている

川は、
ハヤ、サワガニ、カワセミなどの
生きものが棲みやすく、
子どもが泳げるぐらい
澄んだ水が豊富に流れ、
市民がくつろぎ
楽しめる場となっている

エコ生活 分野



ビジョン

『魅力のある交野
エコ良^{ろじん}人の活躍するまち』

無理なく 無駄なく
ゆったり暮らせる快適なまち

環境意識を
未来へ継承できるまち

資源を生かし、
食とモノの命を大切にするまち

※「エコ良人」とは、エコライフを実践している人のことで、か
たの・環境を考える委員会の議論のなかで生み出された言
葉です。

エネルギー
分野

ビジョン

『自然の恵みをとりにいれ、
かしこくエネルギーを
使うまち』

海外からの輸入に頼る
石油やガスなどの
限りあるエネルギーは
かしこく大切に使い、



交野にふりそそぐ
太陽の光、流れる水、そよぐ風、
それら自然の恵みを活かした
いつまでも続くエネルギーを
積極的に取り入れるまち

まちづくり
分野

ビジョン

『住み続けたい環境へ・
やさしいまち交野』

ずっとあるものがあるべき姿のまま、
50年先・100年先まで残っている
それを誇れる人がたくさん住まうまち

それぞれの地域柄を大切にし、
愛着をはぐくむ魅力あるまち



誰もが安心して住まい、
自宅からまちなかまで
安全・快適に暮らせるまち

みんなが主体者になり、
まちのことを自分たちで考え、
解決してゆくまち

3. 地域や社会の環境問題・課題



自然環境分野の問題・課題

分野別ビジョン

『人々が憩う豊かな自然がある』



【ビジョン実現、課題達成のためのプロジェクト】

- ・ 里山を知ろう・里山大好き
- ・ 実践！里山保全活動
- ・ 山の持ち主と活動団体の縁結び
- ・ 生きもののいっぱい！豊かな川づくり

👉 プロジェクトの内容は第2章で紹介します



！ 私たちの課題！

市民参加型の楽しい山づくり

生きものが棲みやすい川にする



地域や社会の環境問題・自然環境分野

👉 竹林の侵食や樹林の整備不足により、山が荒れている……………

里山の大切さが市民に知られていない
間伐などの森林整備がなされていない
竹林が広範囲にはびこっている
生物調査が十分でない
山を適切に管理しない地権者の事情がわからない
地権者と市民をつなぐ仕組みがない
里山の保全活動はボランティア頼みになっている
市民活動を持続的に進める仕組みがない
山を守る行政の施策が不十分である

👉 川が豊かでない、川を大切に
する気持ちが育っていない……………

生きものが少ない
小川や用水路の水量が少ない
上流の水が汚ない
自然に還らないごみがある
川を楽しめる環境がない
市民の川を大切にする気持ちが育っていない



エコ生活分野の問題・課題

分野別ビジョン

『魅力ある交野

ろじん

エコ良人の活躍するまち』



【ビジョン実現、課題達成のためのプロジェクト】

- ・ 生ごみを堆肥化しよう
- ・ やる気がでるエネルギーダイエット
- ・ 売ってエコ 買ってエコ
- ・ めざせ！かたのエコ達人
- ・ 「かたのエコ達人への道」
攻略マニュアル
- ・ 環境学習の場をつくろう！

📖 プロジェクトの内容は第2章で紹介します



！ 私たちの課題！

ごみを減らそう

エコライフをしよう

環境問題を学んで実行しよう

地域や社会の環境問題・エコ生活分野

🔍 環境学習、環境活動の場がない……

- ・ 省エネ、環境問題等、何が正しいか わからない
- ・ 環境とくらしに関する講座がない
- ・ 環境問題を体験する場がない
- ・ グリーンコンシューマー学習の場がない
- ・ 学んだことを活かして行動する場・ 仕組みがない
- ・ 環境活動していない人が多い
- ・ 環境活動をする若い人が少ない

🔍 ライフスタイルがエコライフになっていない……

- ・ エアコンやテレビなどで、電気を使いすぎ
- ・ おもちゃを買い与えず
- ・ 家族そろって食卓を囲まない
- ・ 夜型生活が当たり前になった
- ・ 省エネの取り組みに男性の協力が少ない
- ・ エコ生活はケチくさいと思っている人が多い
- ・ 一人ぐらいたったく無駄と思っている人が多い
- ・ 生活が自然と離れている
- ・ 化学物質の使用が多い
- ・ 薬草など、植物の知識がない
- ・ 農薬などの使用で生態系や人体に影響が出ている

- ・ 各家庭での菜園の取り組みが不十分
- ・ 食べ物に多くのエネルギーを使っている
- ・ 旬を知らない、産地を気にしない
- ・ 自動車に頼った暮らしになっている

🔍 ごみが多い

- ・ 生ごみそのまま捨てられ利用されていない
- ・ 生ごみプラントがない
- ・ ごみを減らす仕組みができていない
- ・ (生ごみ・容器包装・粗大ごみ)
- ・ まだ使えるものが捨てられている
- ・ (家具・衣類・家電etc.)
- ・ 使い捨て商品が多い
- ・ 安価な商品が増えたが、壊れやすいものが多い
- ・ 必要な量を買えない(少量販売していない)
- ・ 量り売りがない
- ・ エコと称して新製品を買わされる
- ・ 修理修繕がしづらく、新品を買う方が安い
- ・ 内容、種類が多すぎる
- ・ 必要性を考えてモノを買っていない
- ・ 必要以上に買い過ぎている
- ・ 分別ごみを出せばエコ生活をしていると思っている人が多い
- ・ リサイクルが美德になっている



エネルギー分野の問題・課題

分野別ビジョン

『自然の恵みを取り入れ、 かしこくエネルギーを使うまち』



【ビジョン実現、課題達成のためのプロジェクト】

- ・ そらいけ！ソーラーパネル
- ・ 風を活かしたまちづくり
- ・ 星のまち☆エコドライブ

📖 プロジェクトの内容は
第2章で紹介します



！ 私たちの課題！

自然エネルギーを普及させよう

省エネルギーをすすめよう

地域や社会の環境問題・エネルギー分野

🔍 省エネについての問題……

雨水の利用が進んでいない
LEDが普及していない
効果が理解されていない
自転車利用が広がっていない
自転車で走りにくい
住宅のエネルギー効率が低い（日本の住宅全般）
低公害車が普及していない

🔍 省エネについての問題……

地域の水資源が発電等に活かされていない
太陽光発電、太陽熱利用が普及していない
（燃料電池、コジェネレーション）
地域のバイオ資源が十分活用されていない
風力発電が普及していない

🔍 啓発や環境情報についての問題……

家庭から排出されているCO2の実態がわからない
節電の効果やメリットが、一般消費者によく知られていない
省エネを当たり前に行うための自覚が浸透していない
企業の省エネを支援するコンサルタントが不足している
ESCO事業などのメリットが、よく知られていない
企業の省エネの取り組みが知られていない
環境問題に関心のない人が多い

🔍 浪費の実態……

自動車が増えた。自動車に頼った生活が当たり前になっている電気を多く
使う自動販売機が増えた
24時間営業の店が増えた
たくさんのエネルギーを使った食べものを食べている



まちづくり分野の問題・課題

分野別ビジョン

『住み続けたい環境へ・ やさしいまち交野』



【ビジョン実現、課題達成のためのプロジェクト】

- ・ 自転車の似合うまち・かたの
- ・ 自転車のマナー向上大作戦
- ・ かたの満喫エコツアー
- ・ 誰もが利用しやすいバスを走らそう
- ・ とかいなかで農とふれあおう！
- ・ 環境学習の場をつくろう！

📖 プロジェクトの内容は第2章で紹介します



！ 私たちの課題！

地域の自然資源を守り活かすため、
田園空間を保全・創生する

環境を大切に考えた観光を活発にし、
環境のまちづくりにつなげていく

地域ぐるみで子どもたちへの環境
教育を進める

誰もが自転車で走りやすく、歩き
やすい道づくり、みんなが自分の
こととして考え解決していく

住民が主体となって、利用しやすい
交通体系にしてい

地域や社会の環境問題・まちづくり分野

🔍 環境負荷の小さい乗り物である自転車が利用しやすい環境になっていない……

歩行者にとって自転車がこわい
安心して自転車で走れる道が少ない
自転車が利用しやすい環境になっていない
自動車利用が多く自動車に頼る社会になっている

公共交通（バス）が利用しにくい……

バス路線が不便
バスの利用者が少ない

🔍 多様な環境保全機能を有する地域の自然資源（農地、山林、景観など）が活かされず、衰退している……

交野の財産・宝だった古いまちなみ・田園風景が少なくなつた
景観づくりが、環境と結びついていない
地元の人の歴史文化への関心が薄れてきている
観光資源となり得る地域資源が活かせていない
農業が衰退し、農地が荒れている

🔍 子どもへの環境教育を支える地域づくりができていない……

子どもが外で遊んでいない地域が多い
子どもの遊ぶ場所が少ない
多くの川が楽しめる場となっていない
小さな公園が活かされていない
地元の人の歴史文化への関心が薄れてきている
子どもを育む地域づくりができていない

4. 交野市環境基本計画の指標と目標（平成30年3月一部改訂）

計画推進において、平成33（2021）年度の目標年次における計画全体の達成状況を把握するため、次のような指標及び目標を設定します。

なお、既に策定されている個別の計画に関する目標値等については、それらの計画が見直されるとともに適宜修正することとします。

指標 1

緑地面積および里山保全活動用地面積

緑地については、市域面積（2,555ha）に対する割合を、平成22（2010）年度の実績55%に対して、平成32（2020）年度に59%以上としそれを維持します。

里山保全活動用地面積については、平成22（2010）年度の実績57.65haに対して、その対象面積を広げます。

……交野市緑の基本計画（平成23年4月）より

年次		策定時		目 標		現 況	
		平成22年（2010）		平成32年（2020）		平成28年（2016）	
人口		77,686人		（将来人口を80,000人と設定）		76,383人	
種別	項目	確保面積 (ha)	市域面積 に対する 割合(%)	目標面積 (ha)	市域面積 に対する 割合(%)	現況面積 (ha)	市域面積 に対する 割合(%)
施設緑地	都市公園や 公共施設緑 地	67.3	2.6%	104.0	4.1%	67.8	2.6%
地域制 緑 地	法又は条例 によるもの	1,346.7	52.7%	1,417.3	55.5%	1,320	51.6%
合 計		1,414.0	55.3%	1,521.3	59.5%	1,387.9	54.3%
年 次		策 定 時		目 標		現 況	
		平成22年（2010）		平成32年（2020）		平成28年（2016）	
市域面積に対する割合		55.3%		59%以上		54.3%	
緑地の面積		1,414ha		1507.5ha以上		1,388ha	

※ 緑地

施設緑地及び地域制緑地をいう。

※ 施設緑地

公共施設として管理されている都市公園や公園緑地に準ずる機能を有する公共施設をいう。

【例：都市公園、ちびっこ広場、学校等】

※ 地域制緑地

法律などにより土地利用を規制することによって良好な自然的環境を保全するもので近郊緑地保全区域や国定公園、農空間保全地域、生産緑地区などをいう。

【例：自然公園、農地、保安林等】

指標 2

二酸化炭素排出量

市域における二酸化炭素排出量を、平成25（2013）年度の排出量354kt-CO₂に対して、平成33（2021）年度に12.2%削減します。なお、この目標値は、平成29（2017）年度時点での国・府の目標に準拠したものです。今後、国内外の情勢変化により見直されることがあります。

※平成25年度の二酸化炭素排出量は環境省ホームページ地方公共団体実行計画（区域施策編）策定支援サイト「部門別、CO₂排出量の現況推計」より

※ 国の目標 平成25年を基準年に平成42年度に26%を削減する。

※ 交野市の考え方と削減率の求め方

考え方は、直近の国の考え方に準拠する。

削減率の求め方は、下表のとおり

国	基準年	目標年度	削減率
	平成25年	平成42年	26%

交野市	基準年	目標年度	削減率
	平成25年	平成33年	12.2%

計画当初の削減目標時の削減量は、76,344t-co₂に対して見直し後の削減量は、43,280t-co₂となり削減量は概ね当初目標の57%となる。

①	平成25年度のCO ₂ 排出量	354.00	
②	国に準拠した平成42年度までの削減率	26%	国は、17年間で26%の削減目標としている。
③	平成42年度の目標量	92.04	交野市の平成25年のCO ₂ 排出量354kt-CO ₂ を平成42年度に26%削減した時の排出量は262t-CO ₂ となり、この場合の17年間の削減量は92kt-CO ₂ となる。
④	1年間でCO ₂ 排出量を削減する量	5.41	②より交野市が目標を達成するためには、定量削減量を仮定した場合、年間5.41kt-CO ₂ の削減が必要となる。
⑤	基準年から計画の目標年度までに削減する量	43.28	基準年とする平成25年度より計画の目標年度の平成33年度までの8年間で削減する量は、43.28kt-CO ₂ (5.41kt-CO ₂ ×8年)となる。
⑥	⑤/①により削減率を算出	12.2%	⑤より目標年度までの削減量を基準年対比で割り戻して削減率を求めた。

交野市域におけるCO₂の排出量状況

	CO ₂ 排出量	備 考
H2	305 kt-CO ₂	計画策定時の基準年 平成2年の二酸化炭素排出量は「地球温暖化対策地方公共団体実行計画(区域施策編)策定マニュアル(第1版)簡易版」(平成22年 環境省)に基づき算出
H24	358 kt-CO ₂	環境省ホームページ地方公共団体実行計画策定支援サイト「部門別CO ₂ 排出量の現況推計」より引用 (http://www.env.go.jp/policy/local_keikaku/kuiki/tools/suiki.html)
H25	354 kt-CO ₂	環境省ホームページ地方公共団体実行計画策定支援サイト「部門別CO ₂ 排出量の現況推計」より
H26	344 kt-CO ₂	環境省ホームページ地方公共団体実行計画策定支援サイト「部門別CO ₂ 排出量の現況推計」より

※ 計画策定時は、環境省からの排出量の公表データはなく、策定マニュアルに基づく算出が必要であったが、現在は公表データが存在することから公表データより排出量を引用する。

指標 3

ごみ処理・再生利用率

*ごみ処理量

家庭系	一人1日あたりのごみ処理量について、平成18(2006)年度の600.5gに対して、平成29(2017)年度に15%削減(510.4g)し、これを維持します。
事業系	平成18(2006)年度のごみ処理量(5,208t/年)に対して平成29(2017)年度に22%削減(4,062t/年)し、これを維持します。
再利用率	平成18(2006)年度の10.7%に対して、平成29(2017)年度に25%とし、これを維持します。

……交野市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(平成23年度)より

家庭系ごみ処理量

年 度	処理量(kg)	年度末人口	一人当たり(kg)	1日当たり(g)	削減率
平成24年度	15,645,661	78,051	200.454	549.2	8.54%
平成25年度	15,444,127	78,114	197.712	541.7	9.79%
平成26年度	15,312,799	77,928	196.499	538.4	10.34%
平成27年度	15,302,986	77,943	196.335	537.9	10.42%
平成28年度	15,399,963	77,913	197.655	541.5	9.83%

家庭系ごみ処理量の推移を見てみると平成27年度までが年々減少していたが、昨年は平成25年度レベルまで増加している。
目標達成の基準(H18)年対比15%削減に向けて、ごみ減量化に資する事業の推進と啓発活動が求められる。

事業系ごみ処理量

年 度	処理量(t)	削減率
平成24年度	4,430	14.9%
平成25年度	4,063	22.0%
平成26年度	3,997	23.3%
平成27年度	4,101	21.3%
平成28年度	3,807	26.9%

事業系のごみ処理量は、年々削減され目標であった、基準(H18)年対比22%削減を達成した。

再生利用率

年 度	家庭系量(kg)	再生利用量(kg)	再生利用率
平成24年度	15,645,661	3,566,357	22.7%
平成25年度	15,444,127	3,902,196	25.2%
平成26年度	15,312,799	3,707,020	24.2%
平成27年度	15,302,986	3,846,914	25.1%
平成28年度	15,399,963	3,567,966	23.1%

目標の平成29年度25%に対して概ね順調な再生利用率を推移している。

再生利用率 = 再生利用量 / 家庭系ごみ × 100(%)

※ 再生利用量 = 資源ごみ + (不燃粗大ごみ + 可燃粗大ごみ) × 0.14 + 集団回収

指標 4

河川水質

数値目標：市内の主要河川の水質を、天野川の環境保全目標値(BODが3mg/ℓ)相当にします。

・主要河川水質状況 BOD数値

河川名	平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度		
	最小値～最大値	平均値		最小値～最大値	平均値		最小値～最大値	平均値		最小値～最大値	平均値		最小値～最大値	平均値	
天野川	1.0 ～ 2.5	1.5		0.7 ～ 1.9	1.2		0.8 ～ 3.0	1.4		1.3 ～ 2.7	1.9		0.7 ～ 1.8	1.3	
皇田中川	4.8 ～ 14.0	9.3		2.3 ～ 20.0	8.7		3.4 ～ 8.2	6.5		4.0 ～ 6.7	5.1		2.9 ～ 10.0	6.2	
江尻川	1.1 ～ 9.0	5.9		3.0 ～ 16.0	7.4		3.9 ～ 8.6	5.3		2.1 ～ 9.6	5.8		2.1 ～ 10.0	5.1	
傍示川	1.2 ～ 4.1	2.3		0.8 ～ 2.8	1.7		1.6 ～ 2.1	1.8		2.4 ～ 3.3	2.7		1.4 ～ 2.8	2.0	
野々田川	4.7 ～ 13.0	10.0		2.2 ～ 12.0	6.3		2.8 ～ 13.0	7.9		2.8 ～ 5.8	4.2		2.3 ～ 10.0	5.4	
がらと川	9.5 ～ 52.0	26.0		3.2 ～ 26.0	14.0		4.4 ～ 22.0	13.0		3.0 ～ 5.6	4.5		3.8 ～ 27.0	12.0	

※ 環境衛生課が実施する年4回の水質検査結果による。

※ 生き物からみる水質：BOD2～3(イワナ、ヤマメ)、BOD3～5(アユ)、BOD5～8(コイ、フナ)が生息する目安と言われてます。

第 2 章

ビジョン実現、
課題達成のための

プロジェクト

第1章で紹介した「総合ビジョン」と「分野別ビジョン」を実現するために、「自然環境」「エコ生活」「エネルギー」「まちづくり」の4つの分野で、市民・事業者・行政による三者協働を基本としたプロジェクトを立案しました。

第2章では、それらのプロジェクトを中心に紹介します。

プロジェクト立案に先立ち、「かたの・環境を考える委員会」では、第1回会議から第12回会議まで、地域のフィールドワークや学習を繰り返し、交野市の良いところや問題点を洗い出しました。プロジェクトは、これら地域の問題の解決・改善と、ビジョン実現の2つの目的を持って立案されています。

1. プロジェクト全体の概要



自然環境分野

- ・ 里山を知ろう・里山大好き
- ・ 実践！里山保全活動
- ・ 山の持ち主と活動団体の縁結び
- ・ 生きもののいっぱい！豊かな川づくり



エネルギー分野

- ・ そらいけ！ソーラーパネル
- ・ 星のまち☆エコドライブ
- ・ 風を活かしたまちづくり



エコ生活分野

- ・ 生ごみを堆肥化しよう
- ・ やる気がでるエネルギーダイエット
- ・ 売ってえこ 買ってえこ
- ・ めざせ！かたのエコ達人
- ・ 「かたのエコ達人への道」攻略
- ・ 環境学習の場をつくろう！



まちづくり分野

- ・ 自転車の似合うまち・かたの
- ・ 自転車のマナー向上大作戦
- ・ かたの満喫エコツアー
- ・ 誰もが利用しやすいバスを走らそう！
- ・ とかいなかで農とふれあおう！
- ・ 地域ぐるみエコで子育て・親育て

プロジェクト紹介ページの見方

.....●

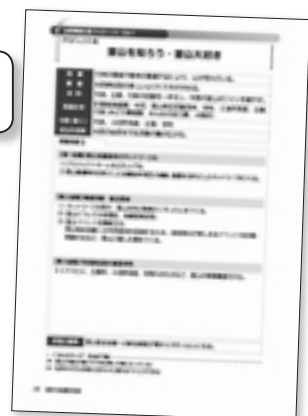
この章で紹介するプロジェクトには、各分野で洗い出した「問題」と「課題」、プロジェクトの「実施目的」「期待できる効果」などとともに、それぞれのプロジェクトの「実施主体（今後、お誘いがけをする団体も含んでいます）」や「対象」を記しています。

「活動内容」は、事業の概要を示しています。計画策定以降、推進組織を設立し、新たな仲間を募るとともに、各プロジェクトの詳細を決定し、実行・推進していきます。

「評価の基準」には、「計画終了時または計画推進中に、このようなことが実現できたら、このプロジェクトが成功した」といえる状況を記載しています。推進組織設立後の詳細検討時に、プロジェクトによって必要であれば、年次ごとの目標を設定します。

なお、計画全体の「指標と目標」は、18から20ページで紹介しています。

各プロジェクトの末尾に記載されている「かたのサイズ」をめざす像は、第4次交野市総合計画「みんなの“かたの”基本構想」で策定された82の「めざす像」のうち、そのプロジェクトに関係するものを記載しています。57から58ページに、「かたのサイズ」をめざす像の一覧を掲載しています。ご参照ください。





かたの・環境を考える委員会

計画策定時にプロジェクト立案をした分野別グループ



自然環境保全



エコ生活



エネルギー



まちづくり

優先共同プロジェクト

めざせ！
かたのエコ達人

計画策定後、
すぐに4つの分野に分
かれ、別々に動くので
はなく、まず、協力し
て仲間づくりに取り組
む。

人材確保、環境基本計画への
関心を高める。

関心を持ってくれ
た人に各分野プ
ロジェクトの推進
メンバーになって
もらう。

自然環境分野のプロジェクト

エコ生活分野のプロジェクト

エネルギー分野のプロジェクト

まちづくり分野のプロジェクト

交野市環境基本計画
推進組織（仮称）

2. 自然環境分野



人々が憩う豊かな自然がある

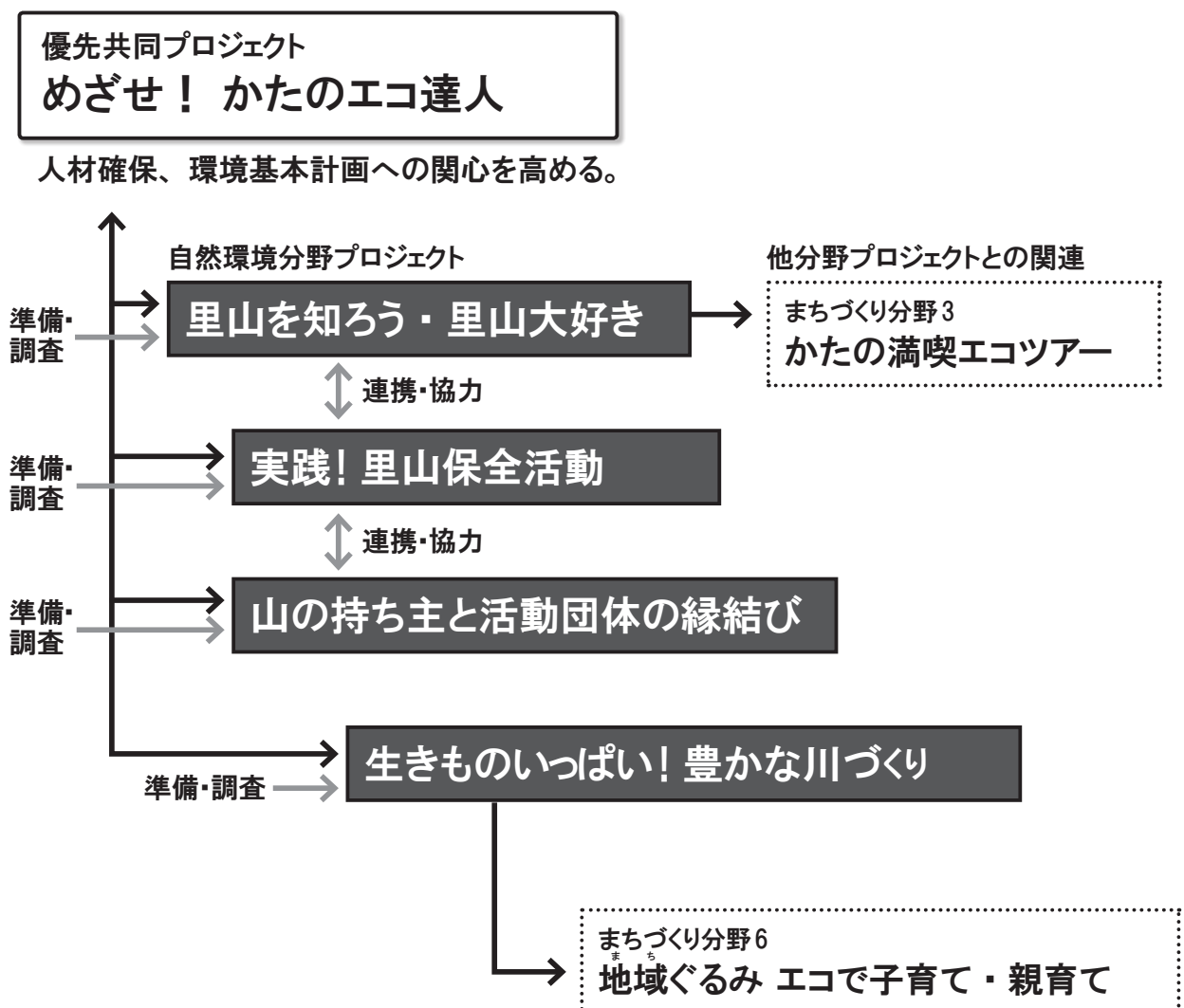
里山は、
生物多様性が保全されていて、
ハイキング・森林浴などの
山遊びが楽しめる
憩いの場となっている

川は、
ハヤ、サワガニ、カワセミなどの
生きものが棲みやすく、
子どもが泳げるくらい
澄んだ水が豊富に流れ、
市民がくつろぎ
楽しめる場となっている

自然環境分野プロジェクト一覧

- ・ 里山を知ろう・里山大好き
- ・ 実践！里山保全活動
- ・ 山の持ち主と活動団体の縁結び
- ・ 生きもののいっぱい！豊かな川づくり

プロジェクトの関係や展開



里山を知ろう・里山大好き

問 題	竹林の侵食や樹林の整備不足により、山が荒れている。
課 題	市民参加型の楽しい山づくりをすすめる。
目 的	市民、事業者、行政の活動を一体化し、交野の里山のファンを増やす。
実施主体	計画推進組織、市民、里山保全活動団体、学校、土地所有者、事業者、行政（環境衛生課、地域振興課、大阪府）
対象（誰に）	市民、土地所有者、事業者、学校
波及的効果	自然を愛する豊かな心が育つ。

活動内容

【第1段階】里山保全活動団体のネットワーク化

- 1) プロジェクトチームを立ち上げる。
- 2) 里山整備等を目的とした活動団体（里山保全活動団体）相互の連絡、協調を目的としたネットワークをつくる。

【第2段階】環境学習・普及啓発

- 1) ネットワーク共同で、里山を学ぶ教育カリキュラムをつくる。
里山についての学習会、後継者育成等。
- 2) 里山イベントを開催する。
里山保全活動への市民参加を促進するため、老若男女が楽しめるイベントを計画・実施するなど、里山と親しむ場をつくる。

【第3段階】市民参加型の調査研究

エリアごとに、生態系、土地所有者、利用のされ方、昔話の聞き取りなど、里山の実態調査をする。

評価の基準	イベント・学習会・調査等への参加者数が累計5,000人以上になる。
-------	-----------------------------------

★ “かたのサイズ” をめざす像」……………

49 「里山の植生が豊かで大切な憩いの場となっている」

50 「自然の中では多様な生き物と触れ合うことができる」



プロジェクト名

実践！ 里山保全活動

問 題	竹林の侵食や樹林の整備不足により、山が荒れている。
課 題	市民参加型の楽しい山づくりをすすめる。
目 的	里山保全活動をする人を増やし、里山の生物多様性を保全し、楽しめる山を整備する。
実施主体	計画推進組織、市民、里山保全活動団体、土地所有者、事業者、行政（環境衛生課、地域振興課、大阪府）
対象（誰に）	市民、土地所有者、事業者
波及的効果	自然を守る活動の輪が広がる。 自然災害に強い地域になる。

活動内容

【第1段階】里山保全作業の実践を学ぶ講座の開催

- 1) プロジェクトチームを立ち上げる。
- 2) 里山保全の実作業を基礎から学ぶための講座を開催する。
* 里山保全活動団体のネットワークを活かし、実作業に必要なスキルを学ぶための教育カリキュラムを作成する。そのために、先進事例および既存の講座の実施状況の調査、講師の選定、内容の検討等を行う。

【第2段階】里山保全活動の実施

- 1) 整備が必要な地域、手法、目標、担当団体などを検討する。
- 2) 植樹、山道の整備、下刈り等の整備、竹藪の整備、物作り、山遊び等を実践する。
- 3) 里山保全活動に必要な資金をつくる仕組みを考える。

評価の基準

里山保全活動への参加者数が累計5,000人以上になる。

★ 「かたのサイズ」をめざす像」.....

- 49 「里山の植生が豊かで大切な憩いの場となっている」
- 50 「自然の中では多様な生き物と触れ合うことができる」

山の持ち主と活動団体の縁結び

問 題	竹林の侵食や樹林の整備不足により、山が荒れている。
課 題	市民参加型の楽しい山づくりをすすめる。
目 的	土地所有者、市民、事業者、行政が協力し合い、里山の保全をはかる。
実施主体	計画推進組織、市民、里山保全活動団体、土地所有者、事業者、行政（環境衛生課、地域振興課、大阪府）
対象（誰に）	市民、土地所有者、事業者
波及的効果	自然を守る活動の輪がひろがる。 自然災害に強い地域になる。

活動内容

【第1段階】里山の所有者等の調査

- 1) プロジェクトチームを立ち上げる。
- 2) 土地所有者および法律・制度で指定された特別な地域等を明らかにして、里山の区域ごとに保全活動の進め方を決める。

【第2段階】土地所有者のニーズ調査

里山保全を有効に進めるために土地所有者のニーズを把握する。

【第3段階】里山保全活動推進の仕組みづくり

- 1) 土地所有者が山を整備することにメリットが得られる仕組みをつくる。
- 2) 土地所有者と里山保全活動団体をつなぐ仕組みをつくる。
* 地域ごとに里山委員会等をつくるなど、保全活動を有機的、友好的に進めるための仕組みをつくる。

【第4段階】協力体制の確立と里山保全活動の実践

つくった仕組みを広く周知し、土地所有者と里山保全活動団体をつなぎ、里山保全活動を実践する（→「実践！里山保全活動」のプロジェクトへ）。

評価の基準

土地所有者と里山保全活動団体をつないだ実績をつくる。

★「かたのサイズ」をめざす像」.....

49「里山の植生が豊かで大切な憩いの場となっている」

50「自然の中では多様な生き物と触れ合うことができる」



プロジェクト名

生きもののいっぱい！豊かな川づくり

問 題	川が豊かではない。川を大切にする気持ちが育っていない。
課 題	生き物が棲みやすい川にする。
目 的	多種多様な在来の動植物が広範囲で生息・生育することができる環境をつくる。
実施主体	計画推進組織、市民、河川環境保全団体、行政（環境衛生課、道路河川課、地域振興課、下水道課、大阪府）、地元水利組合
対象（誰に）	市民
波及的効果	市民の川に対する愛着が深まり、川を大事にしようという想いが生まれる。

活動内容

【第1段階】川への市民の関心を高める調査やイベント、講座の開催

- 1) プロジェクトチームを立ち上げる。
- 2) 川の清掃、河川の周辺への植栽、水辺の生きものの保全等を行う、河川環境保全団体相互の連絡、協調を目的としたネットワークをつくる。
- 3) 市民の川に対する意識を高めるためのイベントを開催する。
例：天野川に注ぐ水マップづくり、生きもの・湧き水・水質調査、川に関する昔話の聞き取り、人の暮らしと川との関係を学ぶ講座など。

【第2段階】市民参加で理想の川づくりワークショップ

望ましい川の姿についてエリアごとにイメージを固める。そのイメージの実現のためにできることを検討する。

【第3段階】生きものの棲みやすい川づくり

- 1) 山の保水力を高める（里山プロジェクトと連携）など、地下水を涵養する。
- 2) 環境の多様な川にする。
＊多自然型工法に関する専門家へのヒアリング、先進事例調査、学習会等を踏まえて、実施可能な地域や手法を検討して、実践していく。

評価の基準

初回の調査時よりも在来の動植物の種類と生息数が増えている。

★「かたのサイズ」をめざす像」.....

47「川や池など水辺環境がきれいで、潤いがある」

50「自然の中では多様な生き物と触れ合うことができる」

これまでの自然環境分野の活動実績

イベント・学習会の参加者数

分野	講座名	区分	24年度	25年度	26年度	増減数	前年対比	27年度	増減数	前年対比	28年度	増減数	前年対比	
自然環境	里山大好き観察会	参加人数		86	75	-11	87.2%	116	41	154.7%	62	-54	53.4%	
		開催回数		2	3	1	150.0%	3	0	100.0%	2	-1	66.7%	
	未来の里づくり講座	参加人数		64	179	115	279.7%	159	-20	88.8%	198	39	124.5%	
		開催回数		2	7	5	350.0%	8	1	114.3%	11	3	137.5%	
	里山実践活動	参加人数			57	57		166	109	291.2%	205	39	123.5%	
		開催回数		2	5	3	250.0%	24	19	480.0%	32	8	133.3%	
	ウォークラリー	参加人数		81	200	119	246.9%	100	-100	50.0%	246	146	246.0%	
		開催回数		1	1	0	100.0%	1	0	100.0%	1	0	100.0%	
	いきものふれあいセンター 観察会	参加人数	260	307	299	-8	97.4%	239	-60	79.9%	229	-10	95.8%	
		開催回数	14	14	13	-1	92.9%	13	0	100.0%	12	-1	92.3%	
	夏休み環境教室	参加人数		31	54	23	174.2%	19	-35	35.2%	38	19	200.0%	
		開催回数		1	1	0	100.0%	1	0	100.0%	1	0	100.0%	
	講座等参加人数計				569	864	295	151.8%	799	-65	92.5%	978	179	122.4%
	講座等開催回数計				22	30	8	136.4%	50	20	166.7%	59	9	118.0%
講座等参加者数合計						3,210人								
10年間の目標人数 5,000人						64.2%								

里山保全活動参加者数

分野	講座名	区分	24年度	25年度	26年度	増減数	前年対比	27年度	増減数	前年対比	28年度	増減数	前年対比
自然環境	交野みどりネット	参加人数			57	57		166	109	291.2%	331	165	199.4%
	交野里山ゆうゆう会	参加人数	953	962	928	-34	96.5%	903	-25	97.3%	940	37	104.1%
	都市近郊の森を育てる会	参加人数	80	100	180	80	180.0%	180	0	100.0%	180	0	100.0%
	その他の活動	参加人数	100	122	120	-2	98.4%	118	-2	98.3%	121	3	102.5%
	里山保全活動人数計		1,133	1,184	1,285	101	108.5%	1,367	82	106.4%	1,572	205	115.0%
	里山保全活動人数合計		6,541人										
	10年間の目標人数 5,000人		130.8%										



ウォークラリー及び環境学習の様子

3. エコ生活分野



魅力のある交野
エコ良^{ろじん}人の活躍するまち

無理なく 無駄なく
ゆったり暮らせる快適なまち

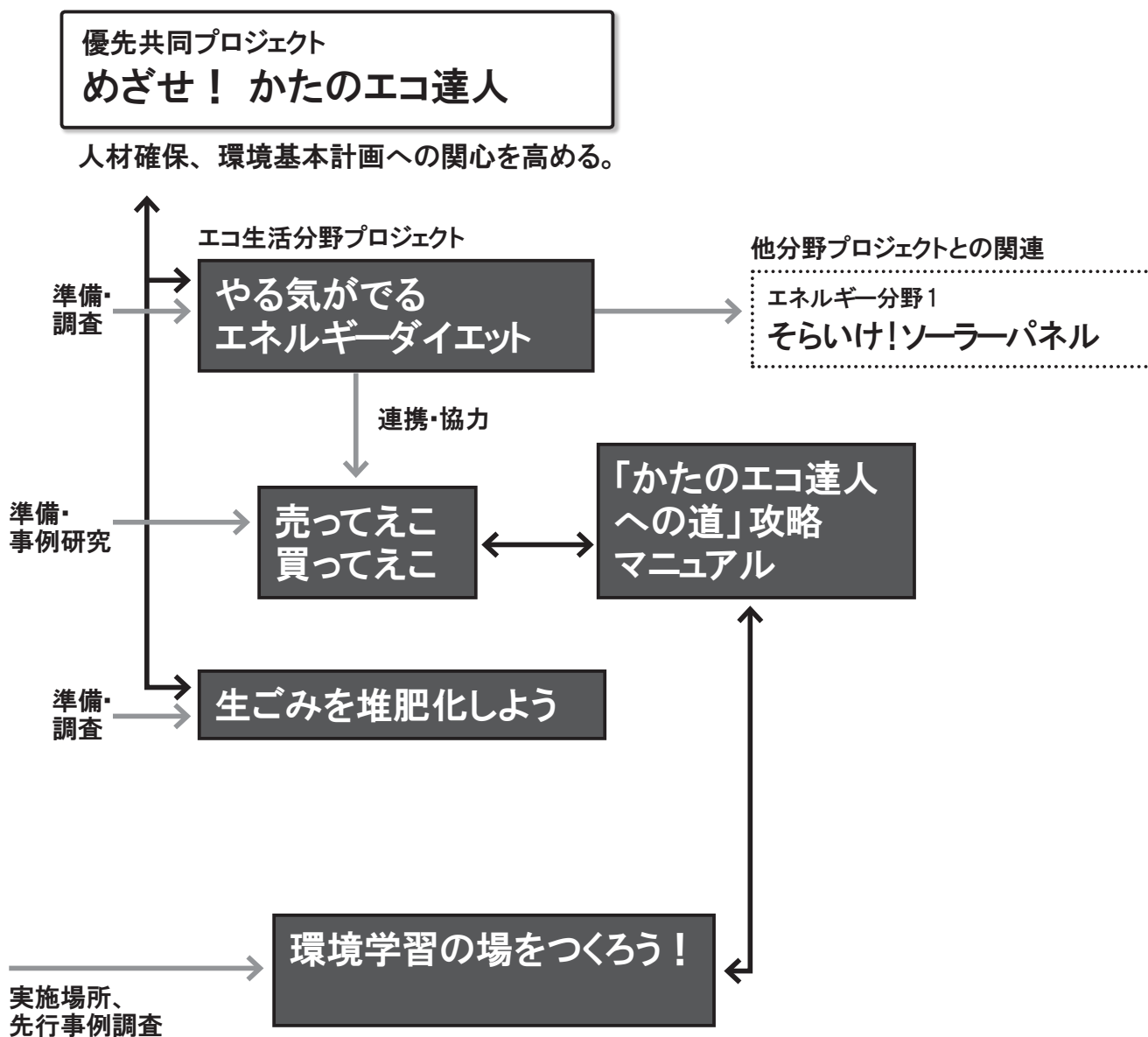
環境意識を
未来へ継承できるまち

資源を生かし、
食とモノの命を大切にするまち

エコ生活分野プロジェクト一覧

- ・ 生ごみを堆肥化しよう
- ・ やる気がでるエネルギーダイエット
- ・ 売ってエコ 買ってエコ
- ・ めざせ！かたのエコ達人
- ・ 「かたのエコ達人への道」攻略マニュアル
- ・ 環境学習の場をつくろう！

プロジェクトの関係や展開





プロジェクト名

生ごみを堆肥化しよう

問 題	ごみが多く、資源である家庭の生ごみが焼却され活用されていない。
課 題	ごみを減らそう。
目 的	生ごみを堆肥化することにより、ごみの焼却量を減らす。
実施主体	計画推進組織、市民、市民団体、行政（環境衛生課、環境事業課、環境総務課）
対象（誰に）	市民
波及的効果	市民の環境意識が向上する。

活動内容

【第1段階】環境学習

- 1) プロジェクトチームを立ち上げる。
- 2) 生ごみ堆肥化についての関心と理解を深める。
* 生ごみ堆肥化に関心を持ち、実践する人を増やすために、講座などを行う。

【第2段階】調査研究

- 先進事例を研究する。
* すでに市や自治会単位で生ごみ堆肥化に取り組んでいるところを視察。進め方などを研究する。

【第3段階】実施に向けた仕組みづくり

- 1) 堆肥化実施に向けて検討する。
* 第2段階で検討した内容をもとに交野市での生ごみ堆肥化を進めるための方法を検討し、実施する。
- 将来的には、生ごみからつくられた堆肥を活用し、資源の循環をめざす。

評価の基準

家庭でのごみの量が減っている。
生ごみ堆肥を利用した農産物が生産されている。

★ 「かたのサイズ」をめざす像」……………
56 「もったいないという思いで限りある資源を大切にしている」

やる気がでるエネルギーダイエット

問 題	ライフスタイルがエコライフスタイルになっていない。 環境学習の場、学んだことを実行に移す場がない。
課 題	エコライフをしよう、環境問題を学んで実行しよう。
目 的	省エネに関心を持ち行動できる市民を増やす。
実施主体	計画推進組織、市民、環境・生活・子育てに関する団体、行政（環境衛生課）
対象（誰に）	市民（家族、学校、事業所単位で）
波及的効果	自然の恵みを感じられる暮らしが広がる。 家族、市民同士のつながりが深まる。

活動内容

【第1段階】準備

プロジェクトチームを立ち上げる。

【第2段階】試行実施

“気軽に参加する人を増やす”ことを目的に省エネにつながる講座を実施する。

例）なぜ省エネが必要か、具体的に何をすればいいのかを学ぶセミナーを実施し、環境について考えるきっかけをつくる。参加者は約1か月間、実際に家で省エネに取り組んだ後、検針票を持って再度集まり、省エネ自慢や反省点を披露しあう。

【第3段階】省エネ実施への実践

セミナーを開催し、環境家計簿をつけることで、省エネへの取り組みを多くの市民にひろげていく。

評価の基準

省エネに取り組む、実践する人が増える。

- ★「かたのサイズ」をめざす像」.....
- 2「体の中から健康でいたいので、食を大切にしている」
- 35「まちの魅力が一層かがやくように、効果的に情報発信している」
- 53「農とふれあう機会があり、農業が身近に感じられる」
- 55「交野ブランドを求めて、人が集まり、まちが潤っている」



プロジェクト名

売ってエコ 買ってエコ

問 題	ライフスタイルがエコライフスタイルになっていない。 エコライフがしやすいモノの売り方・買い方になっていない。
課 題	エコライフをしよう、環境問題を学んで実行しよう。
目 的	売り手と買い手の行動変容によるごみの発生抑制
実施主体	計画推進組織、市民、市民団体、行政（環境部）、各種事業者団体
対象（誰に）	商店主、販売流通事業者団体、消費者
波及的効果	売り方・買い方だけでなく、エコライフスタイル全般に市民が関心を持ち、一人ひとりの生活全体がエコライフ化する。

活動内容

【第1段階】準備

プロジェクトチームを立ち上げる。

【第2段階】現状調査

- 1) 買い方調査としてアンケート調査をする。
- 2) 売り方調査として、身近な店舗での売り方や工夫を調査する。

【第3段階】学習

買い手の意識を変える学習会を実施する。

【第4段階】実践

交野市内での売り方調査の結果をもとに、売り方や工夫がされている店をマップ化するなど、情報を市民に紹介する。

評価の基準

環境に配慮した店が市内に半分以上ある。
人口1人あたりのごみの量が年々減少している。

★ 「かたのサイズ」をめざす像」.....

56 「もったいないという思いで限りある資源を大切にしている」

65 「地球の温暖化に気を配り環境にやさしい配慮をしている」

めざせ！かたのエコ達人

問 題	環境学習の場、学んだことを実行に移す場がない。
課 題	環境問題を学んで実行しよう。
目 的	環境学習を行うことにより、今まで環境に興味がなかった人たちの関心を高め、普及・啓発する人を養成する。また、交野市環境基本計画の各プロジェクト推進の担い手を育む。
実施主体	計画推進組織、市民、市民団体、行政（環境衛生課）
対象（誰に）	市民、行政職員、学校、事業者
波及的効果	エコ生活の実践者が増える。

活動内容

【第1段階】調査・企画・立案

- 1) プロジェクトチームを立ち上げる。
 - 2) 環境学習・検定に関するニーズの調査、他市の事例研究を行う。
 - 3) 講座の企画、年間スケジュールを立案する。
- ＊現在、行われている他の講座との協力や連携も考慮して企画する。

【第2段階】講座の実施

- 1) 初級講座を企画し、実施する。
- ＊当初は広く啓発することを目的に「初級編」連続講座を行う。環境基本計画の各プロジェクトを紹介し、関心のある活動への参加を促す。
- 2) ステップアップ講座を企画し、実施する。
- ＊「初級編」受講者をおもな対象に、計画推進の担い手層育成を目的としたステップアップ講座を企画・実施する。
- ＊将来的には、ステップアップ講座修了者が初級講座の講師（かたのエコ達人）を務めるようにする。
- ※ かたのエコ達人とは、講座の講師を務める等、自ら環境に配慮した行動をしながら他の人に普及・啓発する人を指す。

【第3段階】活動機会の提供

- 1) かたのエコ達人の交流および活動の場をつくる。
- 2) 環境プログラムを作成する（「かたのエコ達人への道」攻略マニュアル等）。
- 3) 出前講座、学校等の講座の講師を派遣できる仕組みをつくる。

評価の基準	受講者数、かたのエコ達人の人数が年々増えている。
-------	--------------------------

★「かたのサイズ」をめざす像」.....

- 25 「自ら興味や問題意識を持ってすすんで学んでいる」
- 31 「これまでに培った知識や経験が人の役にたっている」

- 38 「まちをいろんな角度から学び、体験することができる」
- 65 「地球の温暖化に気を配り環境にやさしい配慮をしている」



プロジェクト名

「かたのエコ達人への道」 攻略マニュアル

問 題	環境学習の場、学んだことを実行に移す場がない。
課 題	エコライフをしよう、環境問題を学んで実行しよう。
目 的	エコライフにつながる具体例を学ぶ資料（環境学習プログラム）を作成する。
実施主体	計画推進組織、市民、行政（環境衛生課）
対象（誰に）	市民
波及的効果	環境に関心のある層、活動する人の層が拡大する。

活動内容

エコライフに関する環境学習プログラムを作成し、興味関心を喚起し、実践から学べる教材として『進化する』ウェブ版の教材を作る。公開、更新、追補することで、更に進化、充実させながら提供する。

【第1段階】調査研究

- 1) プロジェクトチームを立ち上げる。
- 2) 先行団体や先行自治体で作成された、環境学習プログラムを事例研究する。

【第2段階】企画と試行実施

- 1) マニュアル（環境学習プログラム）を作成する。
- 2) プログラムを実施し、その結果を受けて修正する。

【第3段階】プログラムの実施

ウェブ版を作る。

【第4段階】改善

毎年度、進化する教材として、市民はじめ、内外の環境教育実践者を含め、多くの人の知恵を集積できる教材にしていく。
公開、更新、追補することで、更に進化、充実させながら提供する。

評価の基準

マニュアルができている。
マニュアルが講座などで活用されている。

★「“かたのサイズ”をめざす像」

- 25「自ら興味や問題意識を持ってすすんで学んでいる」
- 65「地球の温暖化に気を配り環境にやさしい配慮をしている」
- 77「暮らしに役立つ情報が、わかりやすく、すぐに手に入る」



プロジェクト名

環境学習の場をつくらう！

問 題	環境学習の場、学んだことを実行に移す場がない。
課 題	環境問題を学んで実行しよう。
目 的	「かたのエコ達人」の活動の場づくり、市民が気軽に環境学習にふれる機会づくり。
実施主体	計画推進組織、市民、行政（環境衛生課、教育委員会）
対象（誰に）	市民
波及的効果	環境学習・環境活動をしている人同士のつながり、ネットワークが生まれる。

活動内容

【第1段階】調査研究

- 1) プロジェクトチームを立ち上げる。
- 2) 環境学習に関する拠点、施設について見学・情報収集、他市の事例研究を行う。

【第2段階】企画づくり

- 1) 講座や工作・体験プログラムなどを準備・蓄積しておく。
- 2) 学習の機会を提供できる場を探す。
- 3) 既存の場を利用して学習会等を実施する。



【第3段階】開設に向けた場所の選定

環境について学べる場づくりをする。
将来的には、エコライフを身につけ、行動する市民を増やすための環境学習拠点をつくることを目指す。

評価の基準 「かたのエコ達人」の活動の場、環境について学べる場ができている。

★ 「かたのサイズ」をめざす像」

- 10 「ボランティアや地域活動などに参加して、やりがいがある」
- 21 「様々な人の経験や技が、子どもたちの興味、関心を引き起こしている」
- 25 「自ら興味や問題意識を持ってすすんで学んでいる」
- 31 「これまでに培った知識や経験が人の役にたっている」
- 32 「遠くから多くの人を訪れてきて、出会いや交流がある」
- 77 「暮らしに役立つ情報が、わかりやすく、すぐに手に入る」
- 81 「公共の施設がいろいろな市民の活動に利用されている」

これまでのエコ生活分野の活動実績

講座等参加者数

分野	講座名	区分	25年度	26年度	増減数	前年対比	27年度	増減数	前年対比	28年度	増減数	前年対比
エコ	緑のカーテン	参加人数	47	97	50	206.4%				86	86	
		開催回数	1	2	1	200.0%				2	2	
	エコクッキング	参加人数	118	34	-84	28.8%	23	-11	67.6%	36	13	156.5%
		開催回数	3	1	-2	33.3%	1	0	100.0%	1	0	100.0%
	省エネ講座	参加人数	76	16	-60	21.1%	41	25	256.3%			
		開催回数	4	1	-3	25.0%	2	1	200.0%			
	生ごみの堆肥化及び 減量関係講座	参加人数	38	66	28	173.7%	8	-58	12.1%			
		開催回数	1	4	3	400.0%	1	-3	25.0%			
	講座等参加人数計		279	213	-66	76.3%	72	-141	33.8%	122	50	169.4%
	講座等開催回数計		9	8	-1	88.9%	4	-4	50.0%	3	-1	75.0%
	講座参加者数合計							686人				
講座等開催回数合計							24回					

エコクッキング講座と緑のカーテン講座の様子



4. エネルギー分野



自然の恵みを取りいれ、
かしこくエネルギーを使うまち

海外からの輸入に頼る
石油やガスなどの
限りあるエネルギーは
かしこく大切に使い、
交野にふりそそぐ
太陽の光、流れる水、そよぐ風、
それら自然の恵みを活かした
いつまでも続くエネルギーを
積極的に取り入れるまち

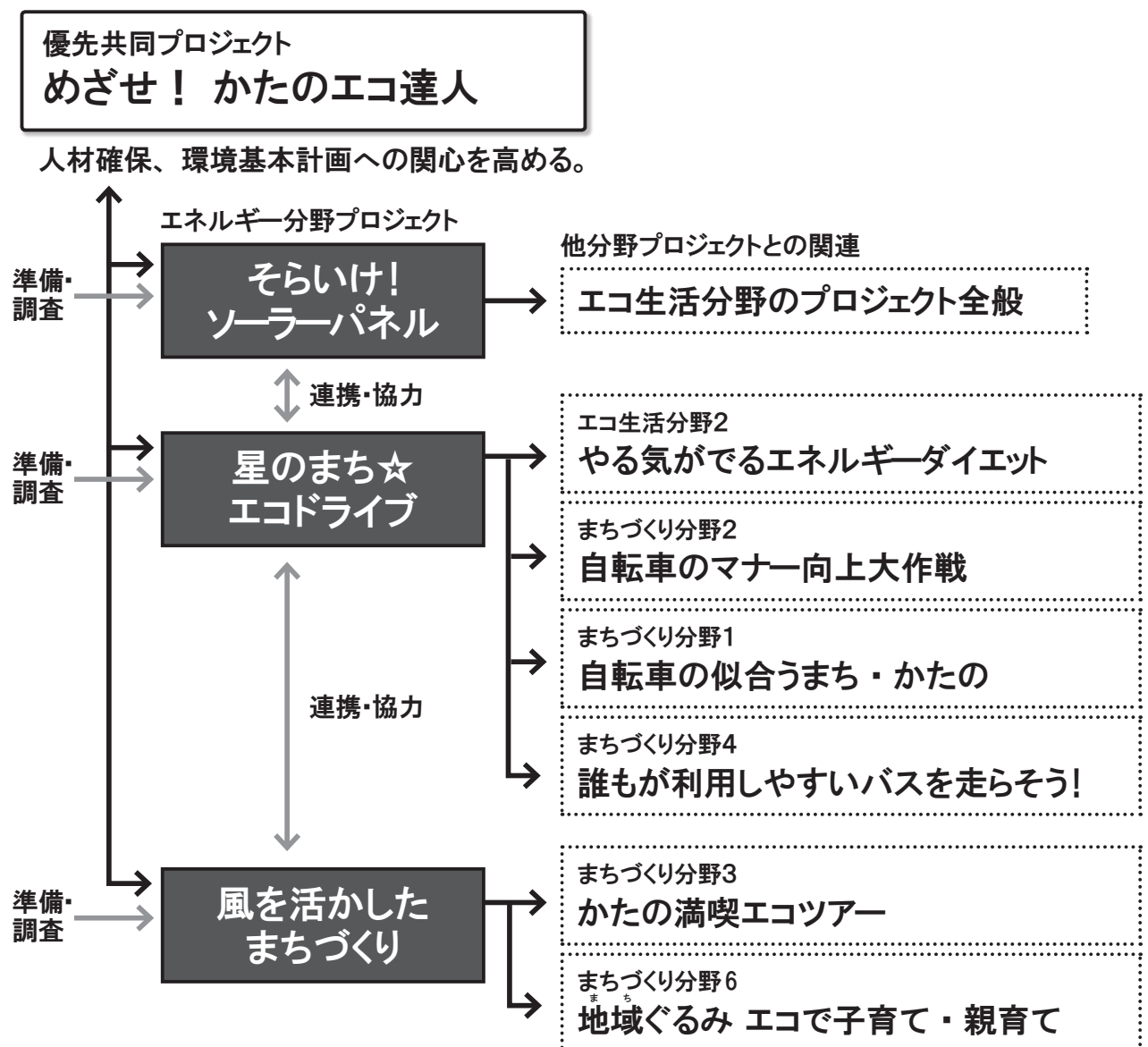


1. 交野市の環境の現況

エネルギー分野プロジェクト一覧

- ・ そらいけ！ソーラーパネル
- ・ 星のまち☆エコドライブ
- ・ 風を活かしたまちづくり

プロジェクトの関係や展開



そらいけ！ ソーラーパネル

問 題	自然エネルギーが普及していない。
課 題	自然エネルギーを普及させよう。
目 的	CO ₂ 削減による地球温暖化防止と環境保全を進める。
実施主体	計画推進組織、市民、事業者、行政（環境衛生課）
対象（誰に）	市民、公共施設等
波及的効果	エネルギーの地産地消等の実践。エコに関心を持つ人たちが増える。

活動内容

【第1段階】主体形成、仲間づくり

- 1) プロジェクトチームを立ち上げる。
- 2) 太陽光発電設備普及の先行事例の研究、情報を収集する。
 ＊他地域の事例や、太陽光発電設備の各メーカー製品の性能、地域の優良事業者の実績等に関する情報を収集する。また、国等の助成金情報、公共施設の建て替え情報等も収集する。

【第2段階】実践普及活動

- 1) 市民向けの啓発を行う。
 地域エコキャラバン、公共施設内に展示コーナー設置、太陽光発電設備導入手引書（収支等のモデルプランなど）作成、先行団体の活動および個人の事例紹介、エコに関する認定等を実施している団体等の取組の紹介を行う。
- 2) 公共施設に積極的な導入を働きかける。
 ＊防災面でのメリットを訴求して公共施設に設置を促す。
 ＊公共施設での導入により市民の関心を高める。具体的には、ソーラー発電にかかるさまざまな情報を収集し、みどりネットのホームページやかたの広報に掲載し、さらなる普及促進につなげる。

【第3段階】太陽光発電設備導入方式の検討

- 1) 市民ファンドの利用、太陽光発電設備の共同購入、市民共同発電所の設立に向けた調査研究（ミニ太陽光パネルを共同で作製し、データ収集実施）を行う。
- 2) 事業者と連携し、最小限の負担で太陽光発電設備が導入可能な手法を検討する。

【第4段階】他の自然エネルギー利用の調査・研究

風力、水力、地熱、バイオマス等の利用について、調査・研究し、交野に適したものから普及をはかる。

評価の基準

相談件数・問い合わせが年々増えている。
 市内の多くの住宅で太陽光発電設備が設置されるようになる（全戸数の1割程度、約3,000軒が設置している）。

★「“かたのサイズ”をめざす像」.....

- 40「まちのあるものを探して、磨いて、魅力を生み出している」
- 65「地球温暖化に気を配り環境にやさしい配慮をしている」
- 68「災害で被害を受けないよう、少なくするよう備えている」

プロジェクト名

星のまち☆エコドライブ

問 題	地球温暖化についてあまり知られていない。 エネルギーの枯渇に関心が低い。
課 題	省エネルギーをすすめよう。
目 的	化石燃料使用の削減に直接つながり、その効果も高いとされるエコドライブを多くの市民が意識し実践することで、地球温暖化防止に貢献する。
実施主体	計画推進組織、市民、事業者、行政（環境衛生課、大阪府）
対象（誰に）	市民、事業所、流入車両
波及的効果	エコドライブの普及にともなって、大気中窒素酸化物濃度が低くなり、また、交通事故が減少する。

活動内容

【第1段階】準備

- 1) プロジェクトチームを立ち上げる。
- 2) 交野のゆるキャラを用いた「エコドライブステッカー」を作成する。
- 3) 講習会や体験会を開催し、受講者に車に貼るステッカーを配布し、市民にPRする。
- 4) コスト削減効果や家計支出効果を、事例をもとに具体的に示した「星のまちエコドライブパンフレット」を、企業向け、家庭向けにそれぞれ作成し、普及活動に活用する。

【第2段階】普及啓発、実践

- 1) 啓発キャンペーンを開催する。事業所単位で取り組む企業を増やす。
- 2) 「優良エコドライバ―」や「優良エコドライブ事業所」認定制度を持つ法人と協力して、普及活動に取り組む。
- 3) エコドライブ実践者のデータを集め、普及活動などに活用する。

【第3段階】発展

- 1) エコドライブ実践者を「エコドライブスタッフ」とし、プロジェクト推進の仲間になってもらう。
- 2) 自動車の利用を控え、買い替え時には燃費性能の高い自動車を選択する人を増やす。

評価の基準

エコドライブ実践者・取り組み事業者数が毎年増えている。

★ 「かたのサイズ」をめざす像」.....

64 「公害のない心地よく住める環境を守っている」

65 「地球温暖化に気を配り環境にやさしい配慮をしている」

風を活かしたまちづくり

問 題	省エネルギーがすすんでいない。
課 題	省エネルギーをすすめよう。
目 的	なるべく冷暖房を使わない工夫をひろめ、省エネルギーを推進することで、地球温暖化防止に貢献する。
実施主体	計画推進組織、市民、行政（環境衛生課、地域振興課）、交野市星のまち観光協会、事業者
対象（誰に）	市民、観光客
波及的効果	市民のコミュニケーションの場ができる。

活動内容

【第1段階】準備・情報収集

- 1) プロジェクトチームを立ち上げる。
- 2) 「天然の涼み処、陽だまり処」探し。
 * 市内にあるクールスポット、ウォームスポット、風の通り道を探すワークショップや涼み処、陽だまり処の募集を実施し、「天然の涼み処、陽だまり処」に指定する。
 （方法：気温等の測定、五感を使った風探しなど。ワークショップ形式、大学との連携）

【第2段階】普及啓発

- 「天然の涼み処、陽だまり処」のマッピング化。
 * マップを作成・配布し、市民や観光客に周知し、散歩や井戸端会議等への活用をはかる。

【第3段階】連携事業

- 1) 「天然の涼み処、陽だまり処」をもっと快適にするための取組を進める。
- 2) 「天然の涼み処、陽だまり処」を活用したイベントの実施。
 * 他のイベント等と連携して、「天然の涼み処、陽だまり処」が活用されるように働きかける。

評価の基準

「天然の涼み処、陽だまり処」の利用者数（市民と観光客）が年々増えている。
 ワークショップ参加者数、「天然の涼み処（陽だまり処）」の指定数が年々増えている。

★「かたのサイズ」をめざす像」

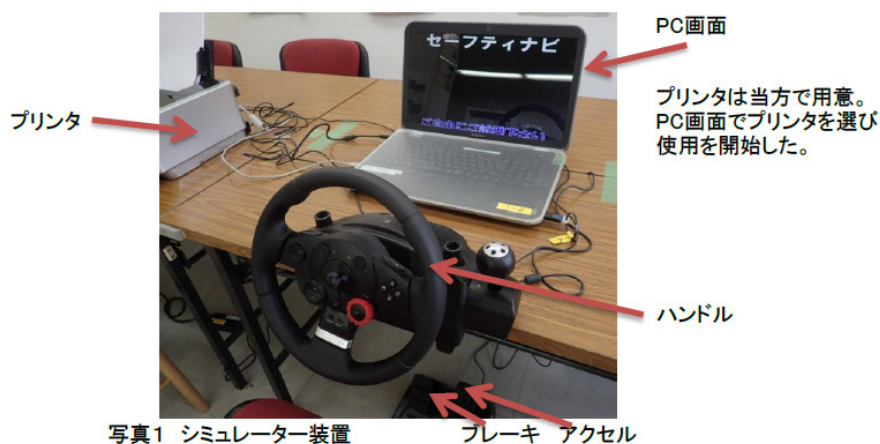
- 9「五感を大切に、情緒豊かな時間を味わっている」
- 40「まちのあるものを探して、磨いて、魅力を生み出している」
- 65「地球温暖化に気を配り環境にやさしい配慮をしている」

これまでのエネルギー分野の活動実績

講座等参加者数

分野	講座名	区分	25年度	26年度	増減数	前年対比	27年度	増減数	前年対比	28年度	増減数	前年対比
エネルギー	エコドライブセミナー	参加人数	23	53	30	230.4%	30	-23	56.6%	62	32	206.7%
		開催回数	1	1	0	100.0%	1	0	100.0%	2	1	200.0%
	太陽光発電関連講座	参加人数	16	37	21	231.3%	42	5	113.5%	21	-21	50.0%
		開催回数	1	4	3	400.0%	2	-2	50.0%	3	1	150.0%
	講座等参加人数合計		39	90	51	230.8%	72	-18	80.0%	83	11	115.3%
	講座等開催回数合計		2	5	3	250.0%	3	-2	60.0%	5	2	166.7%
	講座参加者者数合計						284人					
	講座等開催回数合計						15回					

エコドライブ講習の様子



交野市域及び北河内各市域の太陽光パネルの設置状況

市町村名		10kw未満		10kw以上		合 計		北河内占有率	
		件数	出力(kw)	件数	出力(kw)	件数	出力(kw)	件数	出力(kw)
交野市	26	1,208	4,509	69	1,108	1,277	5,617	10.1%	8.3%
	27	1,363	5,110	88	1,700	1,451	6,810	10.2%	8.3%
	前年 対比	155	601	19	592	174	1,193		
	28	1,467	5,539	104	1,954	1,571	7,493	11.3%	8.9%
	前年 対比	104	429	16	254	120	683		
守口市	26	1,000	3,368	99	1,689	1,099	5,057	8.7%	7.4%
	27	1,106	3,796	115	1,954	1,221	5,750	8.6%	7.0%
	28	1,198	4,161	121	2,065	1,319	6,226	9.5%	7.4%
枚方市	26	4,650	17,061	279	11,616	4,929	28,677	39.0%	42.2%
	27	5,106	18,928	360	16,246	5,466	35,174	38.6%	42.9%
	28	5,424	20,342	397	19,203	5,821	39,545	42.0%	46.9%
寝屋川市	26	2,151	7,582	156	3,526	2,307	11,108	18.3%	16.3%
	27	2,440	8,704	192	4,347	2,632	13,051	18.6%	15.9%
	28	2,659	9,577	215	4,708	2,874	14,285	20.7%	17.0%
大東市	26	1,086	3,792	101	3,273	1,187	7,065	9.4%	10.4%
	27	1,227	4,346	131	3,867	1,358	8,213	9.6%	10.0%
	28	1,318	4,756	144	4,147	1,462	8,903	10.5%	10.6%
門真市	26	878	3,032	87	3,120	965	6,152	7.6%	9.0%
	27	971	3,400	110	3,769	1,081	7,169	7.6%	8.7%
	28	1,055	3,724	128	4,156	1,183	7,880	8.5%	9.4%
四条畷市	26	809	3,093	66	1,246	875	4,339	6.9%	6.4%
	27	878	3,372	90	2,410	968	5,782	6.8%	7.1%
	28	932	3,604	102	2,635	1,034	6,239	7.5%	7.4%

※ 太陽光発電導入状況の数値については、経済産業省 固定買取制度公表資料より作成されたデータを基にしています。

※ 大阪府スマートエネルギー協議会提供資料引用

市 名	北河内地域における参考占有率			考 察
交野市	人 口	面 積	世帯数	平成29年2月現在の市域における太陽光パネル設置件数は1,571件で、北河内地域の設置件数における占有率は、11.3%となっている。 この占有率については様々な観点から評価する必要があると考えるが、ひとつの指標として、北河内地域における人口、世帯数占有率を上回っている。面積では、若干下回っていることが確認される。 【※ 交野の市域面積の約半分を山地が占めている。】
数 値	76,435人	25.55km ²	28,923件	
占有率	6.6%	14.4%	5.9%	
守口市	人口占有率	面積占有率	世帯数占有率	平成29年2月現在の市域における太陽光パネル設置件数は1,319件で、交野市を下回っている。 占有率では、交野市とは逆に、人口、世帯数占有率で下回っている。面積では、若干上回っている状況である。
数 値	142,477人	12.71km ²	64,832件	
占有率	12.2%	7.2%	13.2%	
枚方市	人口占有率	面積占有率	世帯数占有率	平成29年2月現在の市域における太陽光パネル設置件数は5,821件で、北河内地域の42%を占めている。 占有率では、人口、世帯数、面積占有率の全てで上回っている状況である。
数 値	404,152人	65.12km ²	167,418件	
占有率	34.7%	36.7%	34.0%	
寝屋川市	人口占有率	面積占有率	世帯数占有率	平成29年2月現在の市域における太陽光パネル設置件数は2,874件となっている。 設置占有率と人口、世帯数占有率がほぼ同率で面積専用率では、若干上回っている状況である。
数 値	237,518人	24.70km ²	101,549件	
占有率	20.4%	13.9%	20.6%	
大東市	人口占有率	面積占有率	世帯数占有率	平成29年2月現在の市域における太陽光パネル設置件数は1,462件で交野市を下回っている。 設置占有率と人口、世帯数、面積占有率の全てで、ほぼ同率である。
数 値	123,217人	18.27km ²	51,949件	
占有率	10.6%	10.3%	10.5%	
門真市	人 口 人口占有率	面 積 面積占有率	世帯数 世帯占有率	平成29年2月現在の市域における太陽光パネル設置件数は1,183件で交野市を下回っている。 設置占有率では、人口、世帯数占有率を下回り、面積専用率では、若干上回っている状況である。
数 値	123,576人	12.30km ²	55,825件	
占有率	10.6%	6.9%	11.3%	
四條畷市	人 口 人口占有率	面 積 面積占有率	世帯数 世帯占有率	平成29年2月現在の市域における太陽光パネル設置件数は1,034件で交野市を下回っている。 設置占有率では、人口、世帯数占有率を上回り、面積専用率では、若干下回っている状況である。
数 値	56,075人	18.69km ²	22,089件	
占有率	4.8%	10.5%	4.5%	

※ 人口・面積・世帯数は、大阪府HPより引用 <http://www.pref.osaka.lg.jp/shichoson/kurabete/index.html>

※ 人口・世帯数は、H27.10.1（国勢調査からとなっている）、面積は、H28.3.31現在の行政区域名積

5. まちづくり分野



住み続けたい環境へ・
やさしいまち交野

ずっとあるものがあるべき姿のまま、
50年先・100年先まで残っている
それを誇れる人がたくさん住まうまち

それぞれの地域柄を大切にし、
愛着をはぐくむ魅力あるまち

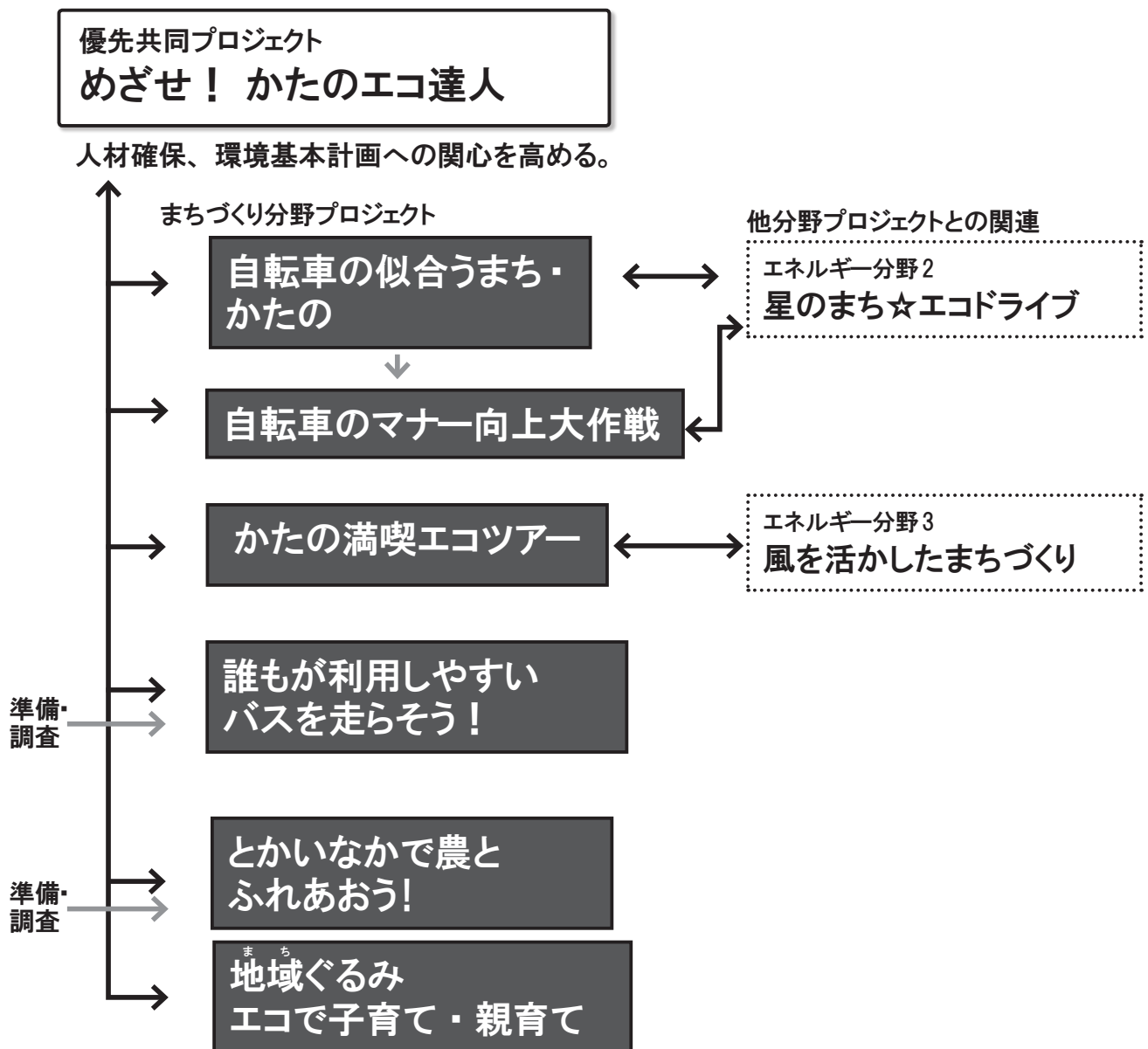
誰もが安心して住まい、
自宅からまちなかまで
安全・快適に暮らせるまち

みんなが主体者になり、
まちのことを自分たちで考え、
解決してゆくまち

まちづくり分野プロジェクト一覧

- ・ 自転車の似合うまち・かたの
- ・ 自転車のマナー向上大作戦
- ・ かたの満喫エコツアー
- ・ 誰もが利用しやすいバスを走らそう！
- ・ とかいなかで農とふれあおう！
- ・ ^{まち}地域ぐるみ エコで子育て・親育て

プロジェクトの関係や展開



自転車の似合うまち・かたの

問 題	環境負荷の小さい乗り物である自転車が利用しやすい環境になっていない。
課 題	誰もが自転車で走りやすく、歩きやすい道づくり、みんなが自分のこととして考え解決していく。
目 的	CO ₂ 排出量の削減。自転車ネットワーク計画の策定。人、自転車、車、各々の役割機能の明確化。交通体系を総合的に再構築。
実施主体	計画推進組織、行政（危機管理室、地域振興課、環境衛生課、道路河川課、大阪府、国等）、商店街、警察署
対象（誰に）	交野市に在住、在勤、在学の人
波及的効果	自動車交通量の減少に伴い交通事故が減少する。

活動内容

【第1段階】

- 1) プロジェクトチームを立ち上げる。

【第2段階】

- 1) 自転車で買い物等がしやすいよう、駅や商店周辺等で利用しやすい駐輪場を設置する。
- 2) レンタサイクルの利用を促すために環境整備と広報宣伝を行い、自転車の利用者を増やす取り組みを行う。
- 3) サービススポットを紹介する。

【第3段階】

「自転車のマナー向上大作戦」で作ったハザードマップ等を利用し、自転車で走行しやすい道路整備を市民参画で目指す。

評価の基準

誰もが自転車を利用しやすい環境になり、自転車の利用頻度が増えている。
レンタサイクルの利用者数が増えている。

- ★「かたのサイズ」をめざす像」……………
- 62 「安心して歩くことができる環境がある」
 - 64 「公害のない心地よく住める環境を守っている」
 - 65 「地球の温暖化に気を配り環境にやさしい配慮をしている」

プロジェクト名

自転車のマナー向上大作戦

問 題	環境負荷の小さい乗り物である自転車が利用しやすい環境になっていない。
課 題	誰もが自転車で走りやすく、歩きやすい道づくり、みんなが自分のこととして考え解決していく。
目 的	自転車や道路への関心を高める。 自転車利用者を増やすことで、自動車によるCO ₂ の排出量を削減する。
実施主体	計画推進組織、行政(環境衛生課、危機管理室、青少年育成課、地域振興課等)、警察署、地域、学校、PTA、子ども会、幼児園
対象(誰に)	交野市に在住、在勤、在学の人(特に中学生以下の子どもとその親)、幼児園児
波及的効果	高齢者・学童・幼児など、交通弱者の事故が減少する。

活動内容

【第1段階】

- 1) プロジェクトチームを立ち上げる。
- 2) 自転車や歩行者の道路通行時に危険な箇所や、注意して走るべき箇所などのハザードマップを作る。

【第2段階】

- 1) 学校などで自転車安全講習会を行い、修了証を発行するなどして、自転車マナーの向上をはかる。
- 2) 市民が参加しやすい講習会を開催し、交通ルールの確認とマナーの向上を促す。

【第3段階】

第1、第2段階の実績を広く市民に知らせる報告会を実施し、自転車や道路への関心を高めると共に、「自転車の似合うまち・かたの」への賛同者を募る。

評価の基準 講習会の参加者数がのべ1万人以上になる。

- ★ 「かたのサイズ」をめざす像」.....
- 7 「マナーを守り、周りに迷惑になることをしないよう心がけている」
 - 23 「地域や学校、家庭が協力して、子どもの健やかな成長を支えている」
 - 62 「安心して歩くことができる環境がある」
 - 64 「公害のない心地よく住める環境を守っている」
 - 65 「地球の温暖化に気を配り環境にやさしい配慮をしている」

かたの満喫エコツアー

問 題	多様な環境保全機能を有する地域の自然資源（農地、山林、景観など）が活かされず、衰退している。
課 題	環境を大切に考えた観光を活発にし、環境のまちづくりにつなげていく。
目 的	観光資源（農地、山林、景観、歴史、文化等）を保全し、それらを活用した観光や学習・環境教育を行う。環境に配慮した観光客を増やす。
実施主体	計画推進組織、物産販売関係団体、行政（環境衛生課、地域振興課、大阪府）
対象（誰に）	市民、観光客
波及的効果	人と人のつながりの場ができる。交野を訪れる人が増える。

活動内容

【第1段階】

- 1) プロジェクトチームを立ち上げ、既存の観光関連団体と、連携・協調を目的としたつながりをつくる。
- 2) ツアーコースを検討、構築する。
 - * コースとポイントを発掘（既存、新設）し、マップを作る。
- 3) ツアーを企画・実施する。
 - * インタープリターを交えて、ツアーの内容、参加定員や実施回数（季節ごと）などを企画し、実施する。
 - * マスコミに取り上げられるような効果的な広報を行う。

【第2段階】

物産販売関係団体と協働し、「交野」ブランドを広く紹介する。交野の魅力を発信する。

評価の基準

ツアーの実施回数、参加者数が年々増加している。

★「かたのサイズ」をめざす像」.....

- 32 「遠くから多くの人を訪れてきて、出会いや交流がある」
- 37 「歴史や文化財に触れてまちの魅力を再確認している」
- 38 「まちをいろんな角度から学び、体験することができる」
- 40 「まちのあるものを探して、磨いて、魅力を生み出している」
- 42 「案内や散策ルートが多彩で、気軽にまち歩きが楽しめる」

- 49 「里山の植生が豊かで大切な憩いの場となっている」
- 51 「山も里も四季折々の景観が楽しめ風情を感じる」
- 52 「地元の農産品が身近に売られ、食卓を彩っている」
- 55 「交野ブランドを求めて、人が集まり、まちが潤っている」

プロジェクト名

誰もが利用しやすいバスを走らそう！

問 題	公共交通（バス）が利用しにくい。
課 題	住民が主体となって、利用しやすい交通体系にしていく。
目 的	公共交通の利用者を増やし、自家用車の利用を低減させる。また、自転車の利用促進により、CO ₂ 排出量を削減する。
実施主体	計画推進組織、市民、行政（環境衛生課、地域振興課、都市計画課）、市民団体、交野市工業会、交野市商業連合会、医療機関、交通事業者
対象（誰に）	市民
波及的効果	市民の移動手段が増え、コミュニケーションが深まり、いきいきしたまちづくりにつながる。

活動内容

【第1段階】

公共交通利用者状況を検証する。

【第2段階】

公共交通の利用促進及び自転車の活用で補完を行う。

評価の基準

公共交通利用者数が増えている。

★「かたのサイズ」をめざす像」……………

61「交通が便利で、どこへでも気軽に出かけている」

64「公害のない心地よく住める環境を守っている」

65「地球の温暖化に気を配り環境にやさしい配慮をしている」

とかいなかで農とふれあおう！

問 題	多様な環境保全機能を有する地域の自然資源（農地、山林、景観など）が活かされず、衰退している。
課 題	地域の自然資源を守り活かすため、田園空間を保全・創生する。
目 的	自転車を活かしたエコツアーを通して農とふれあう
実施主体	計画推進組織、土地所有者、生産連合会、観光協会、JA 北河内、農業ボランティア、行政（環境衛生課、地域振興課）
対象（誰に）	市民、土地所有者、農業ボランティア、交野を訪れる人たち
波及的効果	自転車を活かしたエコツアーを通して観光農業の支援になる

活動内容

【第1段階】

- 1) プロジェクトチームを立ち上げる。
- 2) 遊休農地、耕作放棄地について面積等を把握する。土地所有者の意識調査、問題点と課題整理を行う。
* 行政計画で実施されている農業事業と連動していく。

【第2段階】

- 1) 田園空間の活用に必要な先進事例を研究する。
- 2) 農にふれあいたい人のネットワークを作る。
- 3) 農にふれあいたい人への支援を行う。

【第3段階】

- 1) 自転車ツアーとの連動支援により、観光農業活性化に向けての取り組みを実施する。

評価の基準

農にふれあいたい人とのイベントが開催されている。

- ★「かたのサイズ」をめざす像」.....
- 32 「遠くから多くの人を訪れてきて、出会いや交流がある」
 - 44 「農園で、土にふれ、野菜づくりを楽しんでいる」
 - 53 「農とふれあう機会があり、農業が身近に感じられる」
 - 54 「農業がまちの生業といえるほどに、みんなで支えている」

プロジェクト名

まち
地域ぐるみ エコで子育て・親育て

問 題	子どもへの環境教育を支える地域づくりができていない。
課 題	地域ぐるみで子どもたちへの環境教育を進める。
目 的	自転車を活かしたエコツアーで運動支援
実施主体	計画推進組織、行政（地域振興課、環境衛生課、都市計画課、環境事業所、教育委員会）、地域、農業関係者、PTA、子ども会
対象（誰に）	市民（子どもたちとその家族、地域）
波及的効果	コミュニケーションが深まる。安全な地域づくりにつながる。地域資源が活用される。大人がいきいきと活動している姿に、子どもたちが憧れ、地域への活動に関心を持つようになる。皆で子どもを見守っていこうという地域づくりが進んでいく。

活動内容

【第1段階】準備

プロジェクトチームを立ち上げる。

【第2段階】

「かたの満喫エコツアー」との連動で親子参加型のイベントなど、自転車エコツアーで支援する。

評価の基準

本プロジェクトが各地域で展開され、各地域の特徴を生かしたまちづくりができている。

★「かたのサイズ」をめざす像」.....

- 21「様々な人の経験や技が、子どもたちの興味、関心を引き起こしている」
- 23「地域や学校、家庭が協力して、子どもの健やかな成長を支えている」
- 24「まちなかに元気な子どもたちの笑顔があふれている」
- 26「いつでも身近なところで学びや活動、体験ができる」
- 27「いろんな世代の人同士が交流し、楽しく刺激あっている」

- 37「歴史や文化財に触れてまちの魅力を再確認している」
- 38「まちをいろんな角度から学び、体験することができる」
- 39「地域ごとに豊かな個性があり、地元に愛着を持っている」
- 40「まちのあるものを探して、磨いて、魅力を生み出している」
- 44「農園で、土にふれ、野菜づくりを楽しんでいる」
- 47「川や池など水辺環境がきれいで、潤いがある」
- 53「農とふれあう機会があり、農業が身近に感じられる」

自転車の利用促進によるCO₂の削減に取り組む

まちづくり分野は、プロジェクト名は継承しつつ、具体的な行動を自転車利用の促進によるCO₂の削減に取り組む事をテーマとし、段階的に推進することと致しました。

自転車のメリット

- ① クリーンな移動手段
- ② 手軽な交通手段
- ③ 運動不足の解消

自転車の利用促進により CO₂ の削減に取り組む市民が増えている。市内が、自転車の走りやすい形態になっている。

「とかいなかで農とふれあおう！」「地域ぐるみエコで子育て・親育て」エコツアーとの連携企画、自転車の日常活用促進

「かたの満喫エコツアー」で里山や名所旧跡を自転車で訪ねる。「誰もが利用しやすいバスを走らそう！」では、自転車利用で補完。

基礎プロジェクト 「自転車の似あうまち・かたの」「自転車のマナー向上大作戦」で、市内の自転車走行ハザードマップの作成や自転車レーン等、先進事例の検証



6. “かたのサイズ” をめざす像

第4次交野市総合計画みんなの“かたの”基本構想

No.	“かたのサイズ”をめざす像	活動の担い手(例)				
		市民	地域	団体	事業者	行政
1	家族や友だちが近くで暮らしていて、互いに心強い	☆			△	○
2	体の中から健康でいたいので、食を大切にしている	☆			☆	△
3	スポーツを通して、仲間意識を育み感動を分かち合っている	☆		○		△
4	運動を心がけ、健康が維持できるよう体力を養っている	☆	△	△	△	△
5	働くことと、家族や人生などとのバランスを大切にしている	☆			△	△
6	趣味や生きがいをもち日々楽しく心が充実している	☆	△	△	△	△
7	マナーを守り、周りに迷惑になることをしないよう心がけている	☆	○	○	○	△
8	地域がふれあいに満ちていて笑顔が自然とわいてくる	○	☆	△		△
9	五感を大切に、情緒豊かな時間を味わっている	☆	△	△		△
10	ボランティアや地域活動などに参加して、やりがいがある	☆	○	○	△	△
11	困難を抱えている人をみんなで支えあっている	○	○	○	○	○
12	安心して子どもを生み育てることができる	○	○	○	○	○
13	住み慣れた家で暮らし続けることができる	☆	△	△	△	△
14	福祉施設や専門の支援によって、暮らしが支えられている	○	△	△	☆	☆
15	ご近所と日ごろから「お互い様」と思いやるつながりがある	☆	☆	△		△
16	病気にならないよう予防や衛生環境に気をつけている	☆	△		△	△
17	かかりつけのお医者さんなど身近な医療機関があり、安心できる	○			☆	△
18	子どもたちの未来に明るい希望がある	○	○	○	○	○
19	困ったとき何でも気軽に相談できるところがある	○	○	○	○	○
20	子どもたちが、しっかりと基礎学力を身につけている	○				☆
21	様々な人の経験や技が、子どもたちの興味、関心を引き起こしている	○	○	○	○	○
22	活動や資格取得など目的に合わせて多様な学びの場がある	○	△	△	△	○
23	地域や学校、家庭が協力して、子どもの健やかな成長を支えている	○	○	△	△	○
24	まちなかに元気な子どもたちの笑顔があふれている	○	○	△	△	○
25	自ら興味や問題意識を持ってすすんで学んでいる	☆	△	△	△	△
26	いつでも身近なところで学びや活動、体験ができる	○	○	○	△	○
27	いろんな世代の人同士が交流し、楽しく刺激しあっている	○	☆	☆		△
28	外国の人や異なる文化と交流し、理解と友好を深めている	○	△	☆		△
29	一人ひとりの違いをお互いに尊重しあい、差別なく暮らしている	○	○	○	○	○
30	いろんな活動をしている人が分野を超えて情報交換できる	○	○	☆	○	△
31	これまでに培った知識や経験が人の役にたっている	☆	△	△	△	△
32	遠くから多くの人を訪れてきて、出会いや交流がある	○	○	☆	○	○
33	暴力や虐待のない、思いやりのある暮らしをしている	○	○	○		○
34	新たな物語や話題などが、まちを舞台にして生まれている	○	○	○	○	○
35	まちの魅力が一層かがやくように、効果的に情報発信している	○	○	○	○	○
36	人それぞれにまちの魅力を語り口コミでどんどん広がっている	☆	△	△	△	△
37	歴史や文化財に触れてまちの魅力を再確認している	☆	○	○	○	△
38	まちをいろんな角度から学び、体験することができる	☆	○	○	△	△
39	地域ごとに豊かな個性があり、地元に愛着を持っている	○	☆	○	△	△
40	まちのあるものを探して、磨いて、魅力を生み出している	○	○	○	○	○
41	まち中に、心地よいおもてなしのしつらえや雰囲気がある	○	○	○	○	○

☆：推進・・・自ら主体的に取り組む
○：協働・・・目的を共有し担い合う
△：支援・・・他者の実践を支援する

No.	“かたのサイズ”をめざす像	活動の担い手(例)				
		市民	地域	団体	事業者	行政
42	案内や散策ルートが多彩で、気軽にまち歩きが楽しめる	○	○	○	○	○
43	一年を通じてイベントがあり、それがつながりあっていて面白い	△	○	○	○	○
44	農園で、土にふれ、野菜づくりを楽しんでいる	○			○	○
45	まち中の身近な空間で、うるおいづくりに取り組んでいる	○	○	○	○	○
46	毎日の暮らしの中に、自然の恩恵を感じている	○	△	△	△	○
47	川や池など水辺環境がきれいで、潤いがある	○	○	○	△	○
48	道路や公園など生活環境がきれいに保たれている	○	○	○	○	○
49	里山の植生が豊かで大切な憩いの場となっている	○	△	○	△	○
50	自然の中では多様な生き物と触れ合うことができる	○	○	○	△	○
51	山も里も四季折々の景観が楽しめ風情を感じる	☆	○	○	○	○
52	地元の農産品が身近に売られ、食卓を彩っている	△	△	○	☆	△
53	農とふれあう機会があり、農業が身近に感じられる	☆		○	△	○
54	農業がまちの生業といえるほどに、みんなで支えている	○	○	○	○	○
55	交野ブランドを求めて、人が集まり、まちが潤っている	○	○	○	☆	○
56	もったいないという思いで限りある資源を大切にしている	☆	○	○	☆	☆
57	第二京阪道路の空間が暮らしの憩いの場となっている	○	△	△	△	△
58	第二京阪道路の沿道がまちと調和した新しい景観となっている	○	○	○	○	☆
59	まちなかの空き地や空き家をみんなで有効に活用している	△	○	○	○	○
60	第二京阪道路によってまちが活性化して潤っている	○	○	○	☆	☆
61	交通が便利で、どこへでも気軽に出かけている	○			☆	☆
62	安心して歩くことができる環境がある	○	○	○	○	☆
63	いろんなところで気軽に立ち話や道草が楽しめる	○	△	△	△	△
64	公害のない心地よく住める環境を守っている	△	△	△	☆	☆
65	地球の温暖化に気を配り環境にやさしい配慮をしている	☆	○	○	○	☆
66	災害や事故、急病時の迅速、適切な対応に備えている	○	○		○	☆
67	火災や事故、犯罪が少なく安心である	○	☆	○	○	☆
68	災害で被害を受けないよう、少なくするよう備えている	☆	○	○	○	☆
69	近くに働く場があり、時間にゆとりを持って暮らせる	○			☆	☆
70	まちで営まれている事業を、みんなで盛り上げている	△	△	△	☆	△
71	いろんな人が知恵を出し合って、新しいことが生まれている	○	○	○	☆	○
72	いろんな人や事業、活動がまちの魅力向上に一役買っている	△	△	△	△	○
73	事業をしている人同士が連携し、事業活動を活性化している			○	☆	△
74	暮らしに関する取り組みがビジネスを生み出している	○	○	○	☆	○
75	まちの魅力を一堂に集め、発信して、共感を呼んでいる	○	○	○	☆	○
76	市民も事業者も市の職員も、みんなで楽しく汗をかいている	○	○	○	○	○
77	暮らしに役立つ情報が、わかりやすく、すぐに手に入る	○	○	○	○	☆
78	気軽に話を聴いたり、したりする場が身近にある	○	○	○	○	○
79	おいおいに誇れるおいしい水道水が毎日飲める					☆
80	一人ひとりの悩みや思いがつながってまちの施策になっている	△	○	○	○	☆
81	公共の施設がいろいろな市民の活動に利用されている	○	○	○	○	☆
82	公共の施設の窓口が便利でわかりやすく親切である			○		☆

☆：推進・・・自ら主体的に取り組む
○：協働・・・目的を共有し担い合う
△：支援・・・他者の実践を支援する



7. プロジェクト以外のおもな環境施策（行政）

本計画のプロジェクト以外の主な施策

市は、環境基本計画に紹介しているプロジェクト以外の環境関連施策の策定及び実施については、本計画との整合を図ることにより環境の保全及び創造について配慮しています。

現在、市が実施している主な環境関連施策を紹介します。

1. 4R の推進

市では、「循環型社会形成推進基本計画」（平成15年 環境省）でごみ処理の優先順位が法定化された3R（リデュース＝抑制、リユース＝再使用、リサイクル＝再生利用）に対して、もうひとつのR（リフューズ＝断る）を加えた「4R」を推奨し、循環型社会の形成を推進していきます。

4つの 基本方向

- ・ 循環型社会を形成するための人づくり
- ・ ごみ発生抑制及び再生利用の取り組み
- ・ 環境への負荷が少ない適正なごみ処理の取り組み
- ・ 計画推進のための取り組み

2. 環境にやさしいまちづくり

市役所も事業所として環境負荷への低減を図り、また環境にやさしい自治体をめざした環境施策・事業の推進を管理していくために、環境マネジメントシステム（K-EMS）を運用しています。また、市民への環境保全に対する意識を啓発するために、環境教育・学習事業等を実施します。その事業の中で、協働事業として「環境フェスタin 交野」を実施します。

- ・ かたの環境講座
- ・ 夏休み環境教室
- ・ 環境フェスタin 交野

3. 公害対策の推進

良好な生活環境を保全・創出するために、環境調査や工場・事業所への適正稼働の監視などを関係機関と連携しながら進めます。

- ・ 環境調査（大気汚染常時監視調査、主要河川水質調査、環境騒音調査等）
- ・ 公害苦情の処理
- ・ 公害法令に基づく各種届出指導等

4. 緑のまちづくり施策

里山の保全、地域景観や生物多様性の保全のため、市民団体や地域との協働で良好な森林環境を整備する取り組みを実施します。また、安全・快適な市民生活を支える緑の基盤づくりとして、都市公園等の整備や花と緑のまちなみ形成等をすすめていきます。

- ・ 里山を守るボランティア活動の活性化
- ・ 美化緑化活動団体への支援
- ・ 樹木配布による地域緑化促進事業

5. 地域美化・環境衛生

不法投棄による環境破壊を防止し監視を強化するため、また不法投棄された廃棄物の撤去を行うためのパトロールを実施します。

6. 自然的資源の保全活用の推進

景観法に基づく「景観行政団体」として、本市の景観に関する基本的な方針や施策を示すため「景観基本計画」を策定します。

7. 公園・緑地

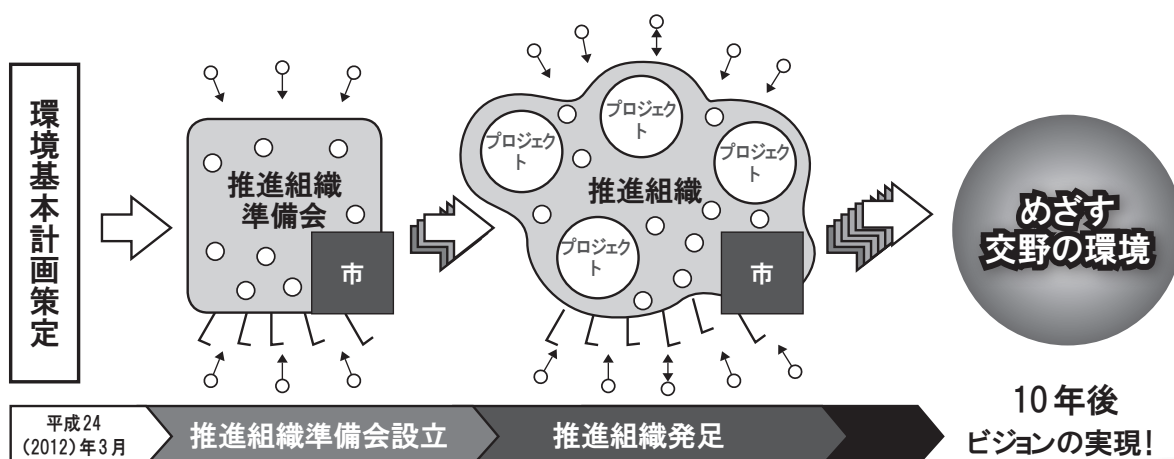
一人当たり約13㎡以上の施設緑地を確保するための整備を実施します。

第3章

推進と評価の仕組み

この章では、交野市環境基本計画を総合的かつ着実に推進するための進行管理の手順や評価・改善の方策を示しています。

下図は環境基本計画推進のイメージです。



1. 計画推進の考え方

本計画に示す様々なプロジェクトを確実に実行し、目指す将来像(ビジョン)を実現していくためには、その進捗状況を管理しながら適切に進めていく必要があります。また、進行管理で課題となった事項については、関係する施策やプロジェクトの調整、あるいはそれに関わるところ(市民・事業者・組織等)と調整していく仕組みが必要になります。このためには、本計画を総合的に推進する推進体制の整備が不可欠になります。

また、現在、市民や各団体等においても環境保全に係る取り組みが行われていますが、総合的な環境施策を推進し“持続可能なまちづくり”をすすめるためには、市民・事業者・行政の協働(パートナーシップ)による相乗効果をもたらすような取り組みが必要です。

このため計画策定段階と同じく、実行段階においてもパートナーシップによる推進体制を考えていきます。

2. 計画の推進体制

パートナーシップによる推進組織

環境基本計画を市民・事業者・行政が協働で推進するため、広く市民、市民団体、事業者等が参加できる計画推進組織を設置します。ここに市も参加することでパートナーシップによる計画の実践をめざした組織とします。

市民・市民団体・事業者等が、本計画のプロジェクトに参加できる仕組みとして、単独または関係プロジェクトごとの推進委員会を運営します。この推進委員会には、市の関係部署も参画しパートナーシップでプロジェクトを推進します。

推進組織は、毎年の年次行動計画の策定、プロジェクトの実施、実施内容の点検・評価、見直し、年次報告、計画の進行管理を市とのパートナーシップで行います。

庁内推進体制

パートナーシップに基づきながらも、市が主体的に責任を持って環境基本計画を推進していくため、庁内の推進体制を整えます。

庁内推進組織は、本計画に基づく施策・事業に関連する関係課等で、「環境基本計画推進ワーキンググループ(仮称)」を組織し、関係課等の相互調整を行い、本計画の施策・事業が総合的、計画的かつ効果的に実施されることを図ります。また、全庁的な本計画の進行管理については、環境マネジメントシステムの庁内推進本部において行っていきます。

3. 進行管理と評価について

進行管理には、『PDCA サイクル』を用います。

PDCA は、計画（Plan）、実行（Do）、点検・評価（Check）、見直し（Action）のことで、 $P \Rightarrow D \Rightarrow C \Rightarrow A \Rightarrow P \Rightarrow \dots$ のサイクルを繰り返し、継続的に改善していくことで、プロジェクトの進捗状況における問題点を検証・解決し、改善しながらビジョンの実現を目指します。

年次行動計画

市と推進組織が、環境基本計画に基づいて、市民・事業者・団体等が行う年度ごとの取り組みをまとめます。

年次報告

市と推進組織は、環境基本計画の進捗状況について、把握できるような必要事項を公表します。

環境マネジメントシステム

市の業務全般にわたって環境配慮を行うための環境マネジメントシステム（K-EMS）等も活用しながら、環境基本計画の進捗内容を管理していきます。

資料編

1. 交野市の環境の現況
2. 交野市環境審議会委員名簿及びワークショップ参加者名簿
3. 用語集



1. 交野市の環境の現況

1. 位置・地勢

交野市は、大阪府の東北部、大阪と京都のほぼ中央に位置し、西は寝屋川市、南は四條畷市、北は枚方市に接しています。大阪市、京都市および奈良市までの距離がいずれもおおむね20キロメートルのところであり、古くからこの3都市の文化を吸収し、独特の風土を培ってきました。

市の面積は25.55平方キロメートルで、市域の北東部から南西部にかけての約半分が山地で占められており、その中には金剛生駒紀泉国定公園があり、交野吊橋一星のブランコからは府民の森、ほしだ園地が眼下に望め、四季折々の美しい風景は市民のみならず、大阪府民、さらには近隣の府県の人々にも愛されています。

山地部は、風化の進んだ花崗岩からなり、多くの溪流が分布しています。平地部は、洪積層および沖積層からなっています。河川は、天野川を中心とする淀川水系ですが、傍系川は寝屋川水系に属しています。これらの、山地の緑や河川・池、湧き水、地下水などの豊富な水資源は、本市の貴重な財産であり、市民の誇りともなっています。

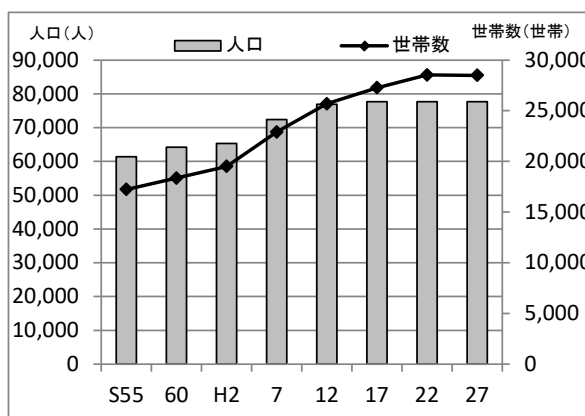
また、本市は、七夕伝説をはじめとする古くからの歴史を持つまちで、旧集落は伝統的な様式の民家が残され、旧街道には歴史資源もみられますが、計画的な市街地整備なども行われてきており、自然、歴史性、新しさなどがほどよく混在しながら市街地が形成されています。

公共交通は、JR学研都市線が2駅、京阪交野線が4駅と交通の便に恵まれています。

主な道路には国道168号線、枚方大和郡山線、枚方交野寝屋川線、交野久御山線、枚方富田林泉佐野線があります。また、平成22（2010）年3月に第二京阪道路の供用が開始されたことにより、大阪、京都方面へのアクセスが一層便利になりました。

2. 人口

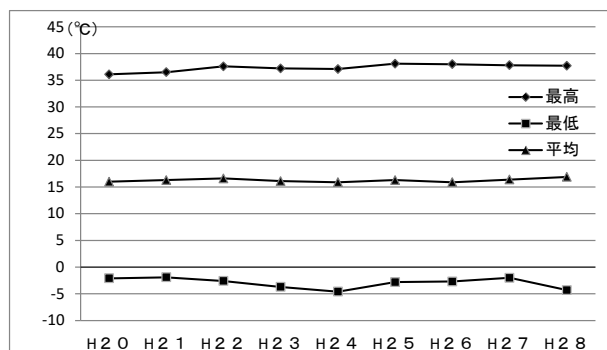
交野市の人口は平成7（1995）年に7万人を超えてからも依然として緩やかな伸び率を示していましたが、近年は人口・世帯数共に横ばいで推移しています。また、一世帯当たりの人数は3人を割っています。



資料：国勢調査

3. 気温

平成25年以降の気温は、横ばい傾向にあります。

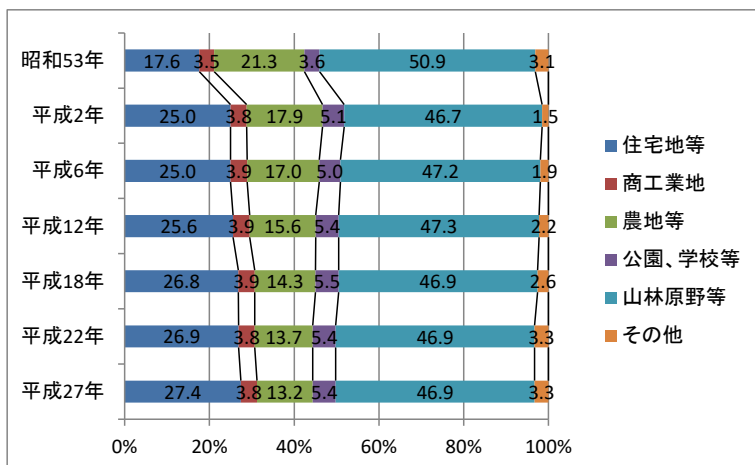


資料：気象庁過去天気(枚方)

4. 土地利用

農地、山林原野等が減少し、住宅地等が増加傾向にあります。

土地利用状況の経年変化



「住宅地等」とは、市街地のうちの一般市街地、集落地、官公署を対象に集計

「商工業地」とは、市街地のうちの商業業務地、工業地を対象に集計

「農地等」とは、農地(休耕田を含む)を対象に集計

「公園、学校等」とは、普通緑地を対象に集計

「山林原野等」とは、山林、原野、牧野、低湿地、荒無地を対象に集計

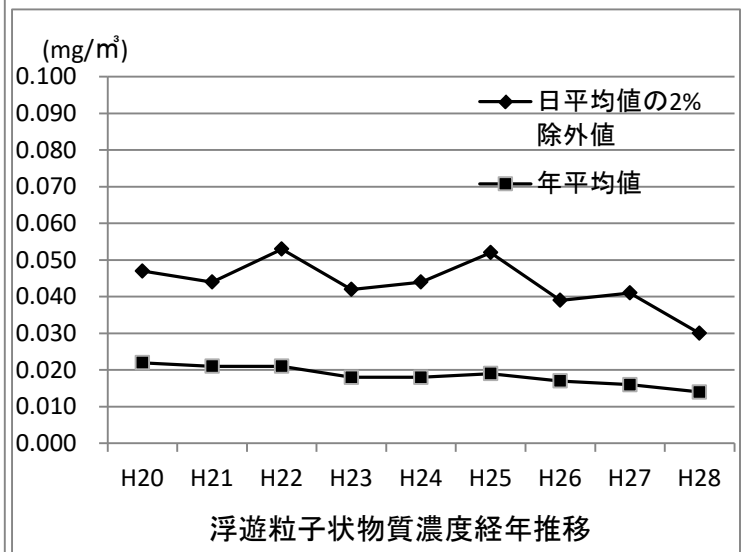
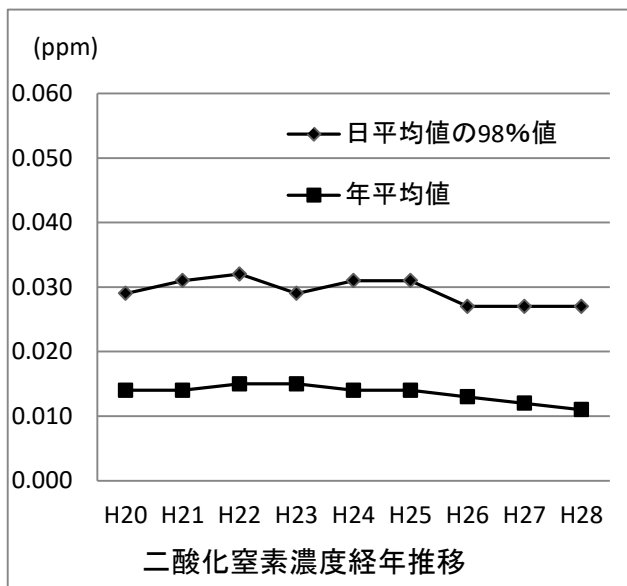
「その他」とは、水面、公共施設、道路、鉄軌道敷、その他の空地を対象に集計

資料：各年都市計画基礎調査より集計

5. 大気

市内の大気汚染の状況を把握、監視するため、市役所の庁舎屋上で24時間の連続測定を行っています。

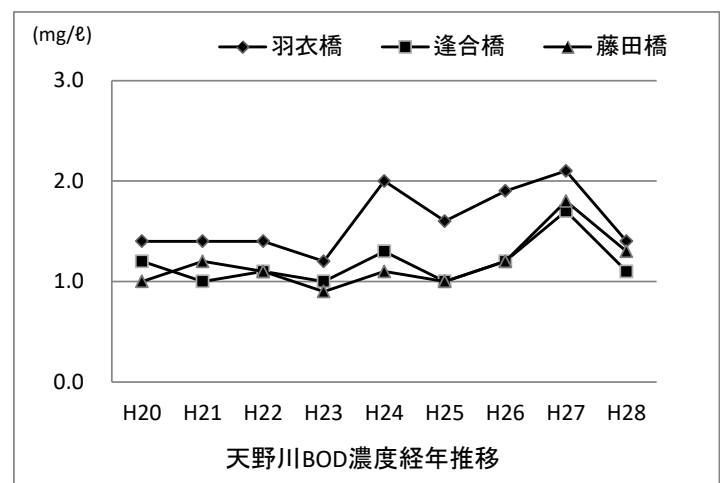
二酸化窒素、浮遊粒子状物質ともに環境基準を満たしています。平均値はいずれも微減傾向にあります。



資料：交野市環境衛生課

6. 水質 (BOD)

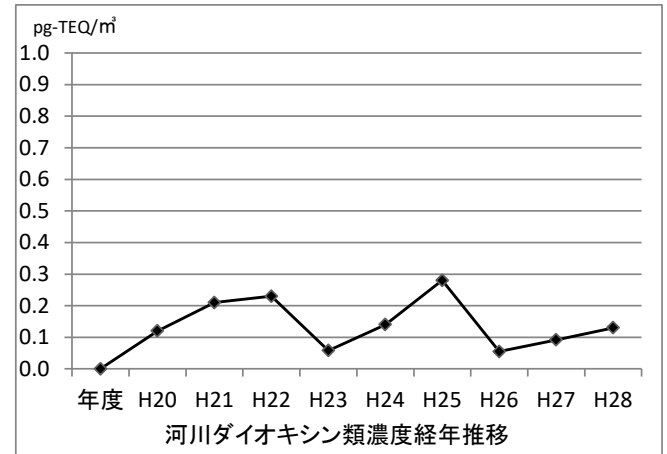
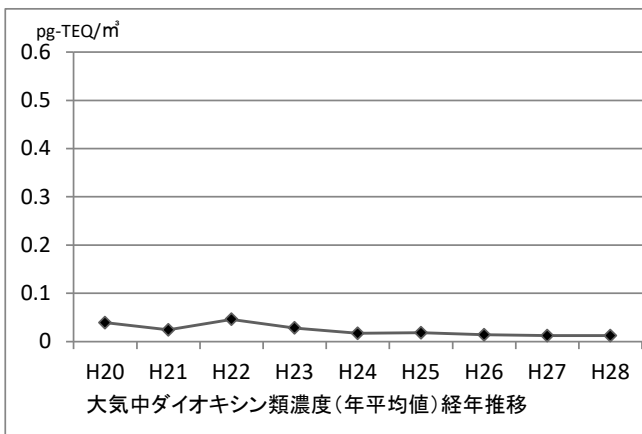
天野川では、羽衣橋(生駒市・四條畷市境)、逢合橋、藤田橋(枚方市境)の3地点において、水質調査を実施しています。水の汚れの度合いを示すBODについて、平均値の変動がみられるものの、3地点とも環境基準を達成しています。



資料：交野市環境衛生課

7. ダイオキシン類

一般環境中のダイオキシン類の濃度を把握するため、大気は市役所庁舎屋上、水質は天野川の藤田橋（枚方市境）で調査を実施しています。大気中、河川水質ともに、環境基準を満たしています。



資料：交野市環境衛生課

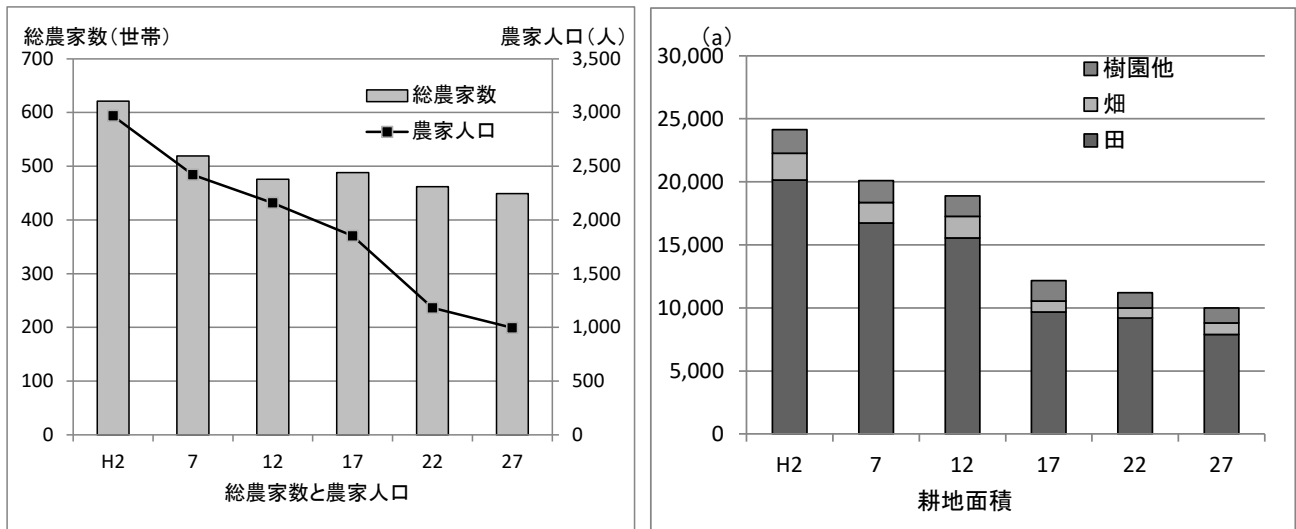
8. 事業所

	事業所数		従業員数	
	H18	H26	H18	H26
農林漁業	-	3	-	20
鉱業・砕石業・砂利採取業	-	-	-	-
建設業	166	212	1,022	1,081
製造業	186	189	3,585	3,192
電気・ガス・熱供給・水道業	1	3	39	47
情報通信業	5	14	31	20
運輸業・郵便業	24	40	742	766
卸売・小売業	499	461	3,894	3,821
飲食店・宿泊業	190	209	1,145	1,371
金融・保険業	22	25	288	252
不動産業・物品賃貸業	96	136	299	405
医療・福祉	162	244	2,703	3,700
教育・学習支援業	141	152	2,184	1,689
複合サービス事業	11	11	224	236
サービス業（他に分類されないもの）	382	120	2,089	680
学術研究・専門・技術サービス業		97		361
生活関連サービス業・娯楽業		190		983
公務（他に分類されないもの）	8	9	431	804
全産業	1,893	2,115	18,676	19,428

資料：平成18年事業所統計調査、平成26年事業所・企業統計調査

9. 農業

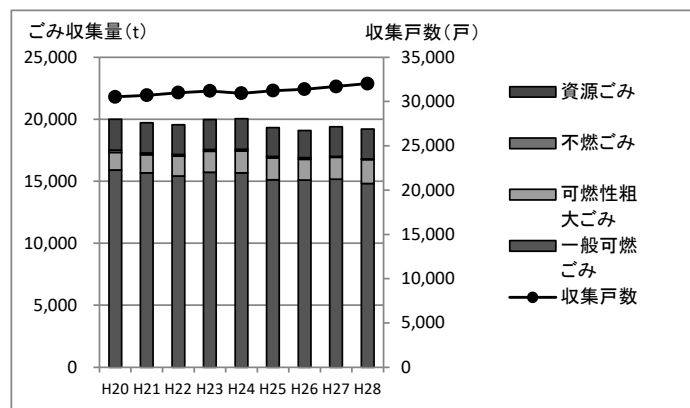
総農家数、人口、耕地面積ともに減少傾向にあります。



参考：農林業センサス及び農業委員会資料

10. ごみ処理量

家庭系ごみは、収集戸数が年々微増しているのに対し、平成24（2012）年以降減少傾向にあります。

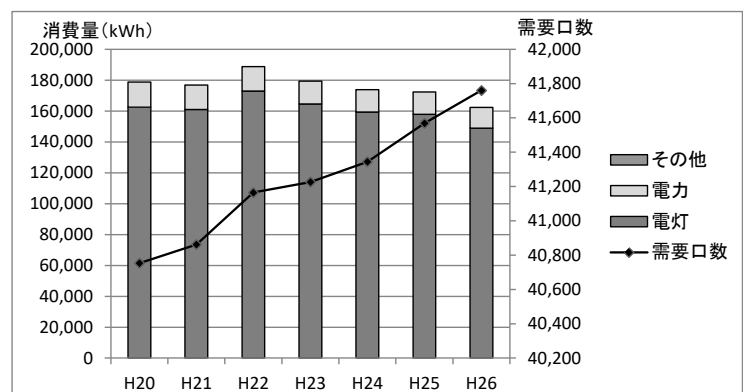


資料：交野市環境部

11. 電力

平成22年以降の消費量は、減少傾向にあります。

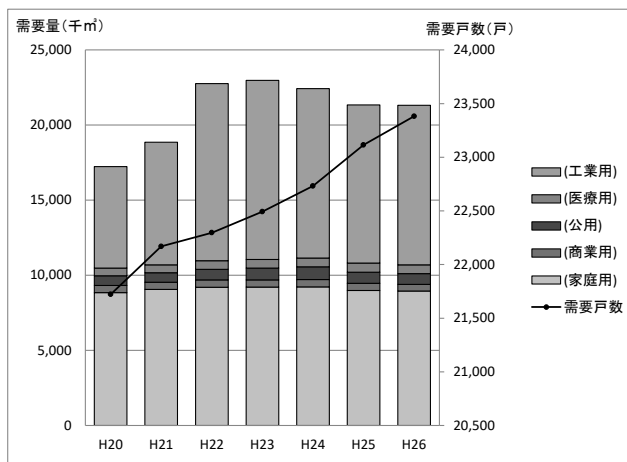
※ 平成22（2010）年度以降、消費量については「特定規模需要」を除いた数値



資料：関西電力

12. 都市ガス

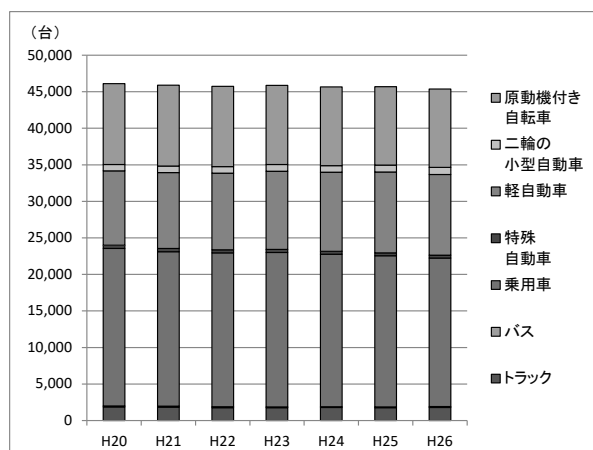
ガス需要量は、平成23年（2011）年以降減少傾向にあります。



資料：大阪ガス(株)

13. 自動車保有台数

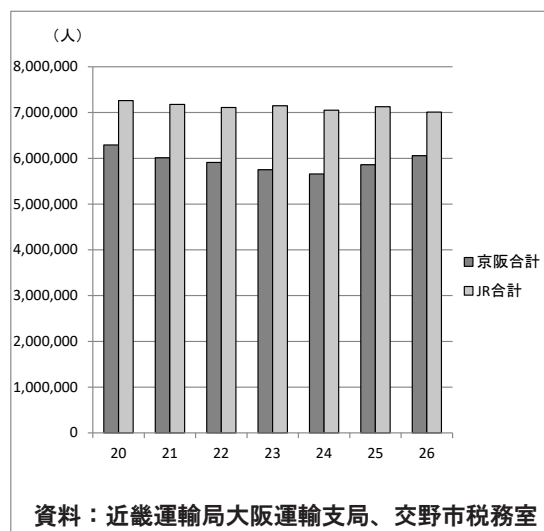
全体としては微減で、乗用車は減少傾向にあります。軽自動車については増加傾向にあります。



資料：近畿運輸局大阪運輸支局、交野市税務室

14. 公共交通利用者数

電車の乗車人数については近年横ばいで推移しています。



資料：近畿運輸局大阪運輸支局、交野市税務室

2. 交野市環境審議会委員名簿及びワークショップ参加者名簿

交野市環境審議会委員

学識経験者 【交野市環境審議会条例 第3条第2項第1号に係る委員】

役 職	所 属 等	氏 名
会 長	摂南大学 理工学部 生命科学科 教授	青 笹 治
副会長	大阪市立大学 大学院 理学研究科 准教授	植 松 千 代 美

関係行政機関の職員 【交野市環境審議会条例 第3条第2項第2号に係る委員】

役 職	所 属 等	氏 名
委 員	大阪府中部農と緑の総合事務所 みどり環境課 課長	澤 田 武 男
委 員	大阪府四条畷保健所 衛生課 課長	黒 岡 邦 雄

その他市長が適当と認めるもの 【交野市環境審議会条例 第3条第2項第3号に係る委員】

(各団体からの推薦者)

役 職	所 属 等	氏 名
委 員	北大阪商工会議所 交野支所長	乾 美 千 代
委 員	交野市工業会 監事	田 中 茂 年
委 員	交野市商業連合会 会長	高 木 次 郎
委 員	一般社団法人交野市医師会 会長	波 戸 良 光
委 員	交野市PTA協議会 副会長	駒 路 和 美
委 員	交野里山ゆうゆう会 会長	奥 田 中
委 員	交野市消費生活問題研究会 会長	代 永 京
委 員	交野市環境基本計画推進会議 代表	玉 井 八 恵 子

ワークショップ参加者

公 募 市 民	大 垣 一 幸
公 募 市 民	佃 肇
公 募 市 民	清 水 保 宏

環境基本計画推進会議所属市民	玉 井 八 恵 子
環境基本計画推進会議所属市民	足 立 秀 次 郎
環境基本計画推進会議所属市民	安 養 寺 敏 彦
環境基本計画推進会議所属市民	浅 田 恵 子
環境基本計画推進会議所属市民	大 原 香
環境基本計画推進会議所属市民	堀 内 信 彦
環境基本計画推進会議所属市民	多 田 羅 正 彦
環境基本計画推進会議所属市民	松 本 實
環境基本計画推進会議所属市民	久 保 隆 枝
環境基本計画推進会議所属市民	今 谷 浩 昭
環境基本計画推進会議所属市民	前 波 艶 子
環境基本計画推進会議所属市民	今 井 佳 子
環境基本計画推進会議所属市民	田 端 嘉 津 子



5. 用語集

【ア行】

インタープリター……

本来は通訳者、解説者をあらわす言葉だが、自然観察、自然体験などの活動を通して、自然を保護する心を育て、自然にやさしい生活の実践を促すため、自然が発する様々な言葉を人間の言葉に翻訳して伝える人を指す（interpret＝通訳する）。一般的には植生や野生動物などの自然物だけでなく、地域の文化や歴史などを含めた対象の背後に潜む意味や関係性を読み解き、伝える活動を行う人を総称している。

【カ行】

化石燃料……

石炭、石油、天然ガスなどを指す。これらは数万年から数億年前の動物や植物が地中で堆積し、変化したもので、そのため化石燃料と呼ばれている。現在世界で使われているエネルギーの大半が化石燃料であるが、これらの燃焼に伴い、地球温暖化の原因とされる二酸化炭素や、大気汚染の原因物質である硫黄酸化物、窒素酸化物などが発生する。また、資源としての埋蔵量にも限りがある。

環境家計簿……

省エネやごみの排出量の削減につなげるため、家庭での電気、ガス、水道、ガソリン等の消費量、ごみの排出量などを定期的に記入し、その変化をチェックする家計簿のような記録帳。

グリーンコンシューマー……

環境に配慮した消費行動をする消費者・生活者。特に商品選択時に、価格・性能・安全性だけでなく、環境への影響にも配慮した選択を意識的にする人をいう。

耕作放棄地……

農作物が1年以上作付けされず、農家が数年の内に作付けする予定が無いと回答した田畑、果樹園を指す（世界農林業センサスの定義より）。日本の耕作放棄地は、2005年の農林業センサスよれば386,000haにのぼり、これは大阪府の面積の2倍以上に相当する。

コジェネレーション……

熱電併給。電気の需要地の近くに発電施設を設け、電気エネルギーだけでなく、発電時に発生する熱もエネルギーとして活用するシステムのこと。

【サ行】

里山……

市街地や集落に隣接する森林で、林産物の栽培・採取や薪炭の生産などに利用され、古来、人々の暮らしと深く関わってきた森林を里山と呼んでいる。地域住民が身近に親しめる一方、その環境の維持には住民による手入れや管理が必要であり、人と自然が共生する場所として注目されている。

自然エネルギー……

本来は再生可能エネルギーという。水力、風力、太陽光、太陽熱、地熱、波力などのように自然に由来し、枯渇の心配がない。また、木質系資源も、適度な管理のもとに活用すれば、再生し枯渇することなく使えることから、木質系資源を用いた発電や暖房なども、自然エネルギーの活用として扱われる。

持続可能……

1987 年、国連の「環境と開発に関する世界委員会」報告書の中で提唱された「持続可能な発展(sustainable development)」という概念に基づく言葉。将来世代の必要(ニーズ)を損なわないように現代世代の必要(ニーズ)を満たすことと考えられている。多くは、環境と経済と社会の発展を調和させて人々が幸せに暮らしていけるようにし、地球を将来世代に引き継いでいけるようにすることを言う。

市民参画……

従来、行政が行ってきた政策立案や実行などについて、市民が主体的に関わり、行政と協働で取り組むこと。行政が市民の意見を聞いてそれを反映させる「市民参加」とは区別し、立案、計画、意思決定、実行の各段階で、市民が主体性を持って関わる場合に用いる。

循環型社会……

「循環型社会形成基本法」では、「製品等が廃棄物となることが抑制され、並びに製品等が循環資源となった場合においてはこれについて適正に循環的な利用が行われることが促進され、及び循環的な利用が行われない循環資源については適正な処分が確保され、もって天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会」と定義付けられている。これに加えてエネルギー、さらに水の循環を視野に入れることが必要と言われている。

生態系……

食物連鎖などの生物間の相互関係と、生物とそれを取り巻く環境の間の相互関係を総合的にとらえた生物社会のまとまりを示す概念。

生物多様性……

生命の豊かさを包括的に表した広い概念で、生態系・生物群系または地球全体に、多様な生物が存在していることを指す。

【タ行】

ダイオキシン類……

非常に強力な毒性を持つ物質で、環境ホルモンの一つ。一般に、ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン(PCDD)、ポリ塩化ジベンゾフラン(PCDF)、コプラナーポリ塩化ビフェニル(コプラナーPCB)をまとめてダイオキシン類と呼んでいる。日本では、ごみの焼却炉からの排出が8~9割を占めると言われている。

多自然型工法……

安全性を確保しつつ、生物の良好な生息・生育環境をできるだけ改変しない、また、改変せざるを得ない場合でも最低限の改変にとどめる、とする自然環境に配慮した工事のあり方。河川工事などに採用されつつある。

地球温暖化……

人間による化石燃料の大量消費により、大気中の二酸化炭素など温室効果ガスの濃度が増加し、地球の平均気温（現在約14℃）が高くなる現象。気温が上昇するだけでなく降雨量も大きく変化し、気候の変化も激しくなることから、正式には「気候変動（climate change）」と呼ぶ。生態系に壊滅的な打撃を与える恐れがあるとともに、異常気象による災害、干ばつや多雨などによる食料生産の悪化、利用できる淡水の減少、海水面の上昇、マラリアなど感染症の流行地域の拡大など、人間の生存と生活にも非常に大きな悪影響を及ぼすと予測されている。

地産地消……

「地元生産-地元消費」を略した言葉で、地元で生産されたものを地元で消費するという意味で使われる。これによって、地域での循環型社会の構築を促し、また、地域の農林水産業の活性化と食物の安全性の確保もめざしている。

窒素酸化物 ……

一酸化窒素 (NO)、二酸化窒素 (NO₂)、亜酸化窒素（一酸化二窒素）(N₂O)、三酸化二窒素 (N₂O₃)、四酸化二窒素 (N₂O₄)、五酸化二窒素 (N₂O₅) など窒素の酸化物の総称。化学式の NO_x から「ノックス」ともいう。石炭やガソリンなどを燃焼させると窒素酸化物が発生する。

とかいなか……

都会と田舎の合成語で、都会の便利さと田舎の魅力をあわせもっているような地方都市をいう。交野市の特徴をうまくあらわす表現として、この計画のなかでも使われている。

【ナ行】

二酸化炭素 ⇒ CO₂ 参照

【ハ行】

バイオマス……

動植物を由来とする資源。木材や農作物、畜産物を収穫したり加工したりする際に出る間伐材やおがくず、糞尿、廃食油、残りかす、建築廃材などの生物系廃棄物を原料としてエネルギーを生み出すことができる。

化石燃料に由来しないため、大気中の二酸化炭素の総量を増大させないことになり、地球温暖化防止策の一つになること、同時に農林業の活性化や廃棄物問題の解決策となり得ることなどの特徴を持っている。

パートナーシップ……

違う立場に立つ人々が、対等な関係のもとに、それぞれの特性に応じた力を出し合って相乗的な効果をあげること。環境問題の解決やまちづくりには、市民・市民団体・事業者・行政のパートナーシップが不可欠だと言われている。

ハザードマップ……

自然災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化したもの。河川浸水被害に備えた「洪水ハザードマップ」の他、土砂災害、地震災害、火山防災、津波浸水・高潮など、その地域の特性に応じて、様々なハザードマップがつくられることがある。

ビジョン……

めざすべき将来像。この計画では、交野市の10年後の環境面でのビジョンを、委員会で幾度もの議論を経て策定した。

フィールドワーク……

椅子に座って講義を聴く「座学」ではなく、現場に出かけて行って状況を調べたり、現場の人の話を聞くなどして、その実態を体感して学ぶ調査研究の手法。

プロジェクト……

問題解決・課題達成のための具体策。この計画では、市民、市民団体、事業者の取り組みや活動、行政の施策や事業、さらにこれらのパートナーシップで行う取り組みを指す。

【ヤ行】

遊休農地……

農地法において、ア 現に耕作の目的に供されておらず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地。イ その農業上の利用の程度がその周辺の地域における農地の利用の程度に比し、著しく劣っていると認められる農地（アを除く）と定義され、有効利用に向けて処置を講ずべき農地のこと。

【ラ行】

ライフスタイル……

生活様式。現在は資源とエネルギーを浪費するライフスタイルであるとされている。環境問題の解決や持続可能な社会づくりのためには、経済システムとともにライフスタイルの根本的な変革が必要だとの認識が国際的になされている。

緑地……

都市計画・法律用語で、「交通や建物など特定の用途によって占有されない空地を空地のまま存続させることを目的に確保した土地」を意味する。一般には樹木、草花などの緑で覆われた土地を指すが、実際は農地などの裸の土の地面や水面も含むことが多く、そのため空地（くうち）＝オープンスペースとほぼ同義である。この意味の緑地には、公園・広場・墓園などが含まれる。

【ワ行】

ワークショップ……

もともとの意味は、手作業で協力しあって物を生産する工房。意味が転じて、住民参加型のまちづくりにおいては、多様な経験や価値観を持つ個々人が、知識や経験の有無に関係なく、対等な人間関係のもとに学びあい、創造的な雰囲気の中でより生産的な合意形成を図る方式を言う。

【B】

BOD（Biochemical Oxygen Demand：生物化学的酸素要求量）……

水質汚濁の汚染指標のひとつで、水中の微生物が一定時間内（20℃で5日間）に有機物を酸化・分解するために消費する酸素の量を示す数値。この数値が高ければ高いほど水中の有機物の量が多いことを示す。河川の汚濁を測る代表的な指標。

なお、BOD は生物によって代謝されやすい有機物を表現しているもので、代謝されにくい物質は測定値の中に入っていない。また、排水中に生物に対して有毒な物質が含まれていると、生物の活性を低下させるため、実際よりも低い値となる。

【C】

CO₂ (Carbon Dioxide) ……

二酸化炭素のこと。常温常圧では無色無臭の気体。化学式から「シーオーツー」と呼ばれる。地球の気候を温暖に保つ温室効果ガスの代表的なものだが、近年は化石燃料の大量使用で、大気中のCO₂濃度が増し、地球温暖化（気候変動）の原因となっている。

【E】

ESCO 事業 ……

Energy Service Company 事業の略。エスコと読む。

工場やオフィスビルなどの水道光熱費等の省エネに関する診断と、削減策の提示や設計・施工を行う。その結果得られた水道光熱費等の削減実績から対価を得るビジネスのこと。

【P】

PDCA サイクル (Plan-Do-Check-Action cycle) ……

マネジメントサイクルの一連の流れを表した言葉で、計画 (plan)、実行 (do)、評価 (check)、改善 (action) のプロセスを順に実施するもの。最後の action は、フィードバックと言い換えてもよく、ここまで来たら再びはじめの plan に戻り、継続的に改善を続けていくマネジメント手法。

交野市

